平成 25 年度
サロベツ自然再生普及推進検討業務

報　告　書

平成 26 年 3 月

環境省　北海道地方環境事務所

特定非営利活動法人　サロベツ・エコ・ネットワーク

目次

1.業務概要.....3

2.業務目的.....3

3.業務内容.....3

3.1 自然再生事業地における環境学習の実施.....3

3.2 サロベツの湿原と農業の共生をテーマとしたイベントの実施.....4

3.3 エコモー☆サポーター活動の運営.....5

3.4「サロベツ・エコモー・プロジェクト」活動募集パンフレットの作成・印刷.....5

4. 打合せ.....6

5.成果品.....7

6.業務工程.....7

7.連絡体制等.....8

8.業務成果.....9

8.1 自然再生事業地における環境学習の実施.....9

8.2 サロベツの湿原と農業の共生をテーマとしたイベントの実施.....48

8.3 環境学習等の今後の課題.....106

8.4 エコモー☆サポーター活動の運営.....112

8.5「サロベツ・エコモー・プロジェクト」の活動募集に向けた
パンフレットの作成・印刷.....130

9.資料編.....131

1.業務概要

業務名：平成 25 年度サロベツ自然再生普及活動推進検討業務

業務期間：平成 25 年 9 月 10 日から平成 26 年 3 月 28 日

履行場所：北海道天塩郡豊富町

発注者：環境省北海道地方環境事務所

受注者：特定非営利活動法人サロベツ・エコ・ネットワーク

2.業務目的

サロベツ原野においては、平成 17 年に設立した上サロベツ自然再生協議会により「湿原の保全」「農業の振興」「地域づくり」を目標とした自然再生事業が行われており、環境省においては平成 21 年 7 月に策定した実施計画書に基づきサロベツ川放水路南側湿原の乾燥化対策、泥炭採掘跡地の植生回復等に取り組でいる。

また、平成 24 年 6 月には「上サロベツ自然再生普及行動計画」が改訂され、自然再生の取り組みを持続的なものにするために、取り組みを地域内外に伝え、多様な主体の参画や連携を促すことが示された。

このことから、本業務は、環境省が自然再生事業に取り組む事業地を環境学習の施設として活用するとともに、サロベツの湿原と農業の共生をテーマとしたイベントを実施し、サロベツ自然再生事業において地域住民等多様な主体の参画や連携を促すことを目的としている。

3.業務内容

3.1 自然再生事業地における環境学習の実施

自然再生事業の管理用施設として整備された調査用木道を活用し、自然再生の取り組みを伝え、住民参加の促進を図るための環境学習を、サロベツ川放水路南側湿原及び泥炭採掘跡地植生回復試験地のそれぞれで各 1 回、計 2 回実施した。なお、環境学習の実施に当たっては、「上サロベツ自然再生普及行動計画」の内容や再生普及部会での審議の結果を踏まえて行った。

(1) 企画立案と実施計画の作成
(2) 事前の広報活動
(3) 学習資料の作成
(4) 当日の運営
(5) 実施結果の取りまとめ

表-3.1　自然再生事業地における環境学習の実施状況

回数	開催日程	イベント名	見学場所
1	平成25年9月28日	第1回環境学習ツアー	サロベツ川放水路南側湿原
2	平成25年10月19日	第2回環境学習ツアー	泥炭採掘跡地植生回復試験地

3.2 サロベツの湿原と農業の共生をテーマとしたイベントの実施

サロベツ自然再生事業において地域住民等多様な主体の参画や連携を促すため、サロベツ湿原センターを活用し、サロベツの湿原と農業の共生をテーマとしたイベントを１回実施した。イベントの開催に当たっては、「上サロベツ自然再生普及行動計画」の内容や再生普及部会での審議の結果を踏まえ、以下のことを実施した。

(1)　企画立案と実施計画の作成
(2)　参加団体の選考、参加団体との調整（使用備品類の手配を含む）
(3)　事前の広報活動（チラシ 1,000 部及びポスター30 部の作成を含む）
(4)　当日の運営
(5)　実施結果の取りまとめ

なお、イベント実施に際しては、エコモー☆サポーター（「上サロベツ自然再生普及行動計画」に位置づけられた有志の協力団体）から協力を得た。

表-3.2　湿原と農業の共生をテーマとしたイベントの実施状況

開催日程	イベント名	開催場所
平成25年10月14日	サロベツ・エコモーDay	豊富（サロベツ湿原センター）

3.3 エコモー☆サポーター活動の運営

上サロベツ普及行動計画に基づき、サロベツ・エコモー・プロジェクト推進を目的に活動しているエコモー☆サポーター活動について、月に１回程度豊富町にて開催する会議及びイベント（全７回、会議は平日夜間に開催）の運営を行った。会議及びイベントの運営に当たっては、「上サロベツ自然再生普及行動計画」の内容や再生普及部会での審議の結果を踏まえて以下のことを行った。

(1) 会議資料の作成
(2) 実施結果の取りまとめ

なお、エコモー☆サポーター活動の運営に当たっては、サロベツ・エコモー・プロジェクトのホームページを活用する等し、活動の普及啓発に努めた。

表-3.3　エコモー☆サポーター会議及びイベントの実施状況

回数	開催日程	会議及びイベント名	開催場所
1	平成25年10月2日	第12回エコモー☆サポーター会議	豊富
2	平成25年10月31日	第13回エコモー☆サポーター会議	豊富
3	平成25年11月23日	エコモー☆メンバー交流会	豊富
4	平成25年12月11日	第14回エコモー☆サポーター会議	豊富
5	平成25年1月29日	第15回エコモー☆サポーター会議	豊富
6	平成25年2月20日	第14回再生普及部会に向けて	豊富
7	平成25年3月14日	第16回エコモー☆サポーター会議	豊富

3.4「サロベツ・エコモー・プロジェクト」活動募集パンフレットの作成・印刷

サロベツ・エコモー・プロジェクト」の活動募集に向けたパンフレットを作成し、1,000部を印刷した。なお、パンフレット作成においては校正・デザインを含む作業を行った。

4. 打合せ

打合せは、業務着手時に１回、最終報告時１回のほか、環境学習の実施２回、イベントの実施時２回、エコモー☆サポーター活動７回、合計 13 回を現地（豊富町）で実施した。

表-4.1　打合せ協議日程等

回数	打合せ日程	打ち合わせ内容等	打合せ場所
1	平成25年9月12日	(着手時打合せ) 作業計画書について・第1回環境学習について	豊富
2	平成25年9月13日	第1回環境学習について・サロベツ・エコモーDayについて 第2回環境学習について	豊富
3	平成25年9月18日	エコモー☆サポーター会議に向けた事前打ち合わせ	豊富
4	平成25年9月19日	第12回エコモー☆サポーター会議資料について	豊富
5	平成25年9月25日	サロベツ・エコモーDayについて・第2回環境学習について	豊富
6	平成25年10月4日	第1回環境学習の振り返り・サロベツ・エコモーDayについて 第2回環境学習について	豊富
7	平成25年10月17日	サロベツ・エコモーDayの振り返り・ 第2回環境学習について 印刷物の仕様等確認	豊富
8	平成25年10月24日	第13回エコモー☆サポーター会議資料について・第2回環境学習の振り返り	稚内
9	平成25年11月23日	エコモー・メンバー交流会の振り返り 第14回エコモー☆サポーター会議資料について	豊富
10	平成25年12月5日	第14回エコモー☆サポーター会議資料について	豊富
11	平成26年1月22日	第15回エコモー☆サポーター会議資料について	豊富
12	平成26年2月20日	第14回再生普及部会資料について	豊富
13	平成26年3月6日	第16回エコモー☆サポーター会議資料について・	豊富
14	平成26年3月13日	(完了時打合せ) 業務報告書等について	豊富

5.成果品

本業務の成果品は表-5.1 に示す通りである。

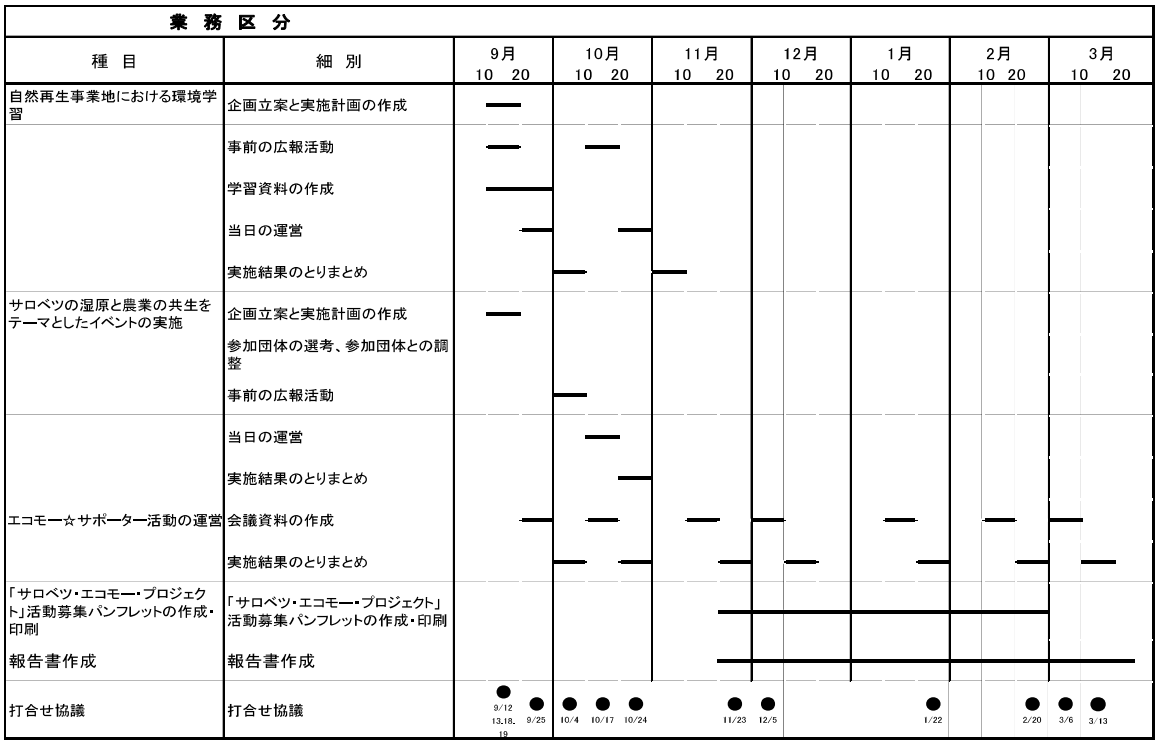
表-5.1　成果品一覧表

項 目	規 格	部 数		備 考
		電子媒体	紙媒体	
業務報告書	A4版 カラー両面印刷 100ページ程度	2	5	
イベントチラシ	A4版 カラー両面印刷 1ページ		1000	
イベントポスター	A2版 カラー片面印刷 1ページ程度		30	
「サロベツ・エコモー・プロジェクト」 活動募集パンフレット	A4版 カラー両面印刷 6ページ程度		1,000	

6.業務工程

本業務の工程は表-6.1 に示す通りである。

表-6.1　業務工程表



7.連絡体制等

(1) 発注者

環境省　北海道地方環境事務所

(担当　稚内自然保護官事務所　自然保護官　中島　信人)

〒097-8527　稚内市末広 5-6-1　稚内地方合同庁舎

TEL：0162-33-1100　FAX：33-1101　携帯電話：080-1880-0017

Mail：NOBUTO_NAKAJIMA@env.go.jp

(2) 請負者

特定非営利活動法人サロベツ・エコ・ネットワーク

(担当　事務局長　嶋崎　暁啓(としひろ))

〒098-4122　天塩郡豊富町字豊富東 2 条 5 丁目

TEL&FAX：0162-82-3950　携帯電話：090-9206-3147

Mail:shimazaki@sarobetsu.or.jp

8.業務成果

8.1 自然再生事業地における環境学習の実施

自然再生事業の管理用施設として整備された調査用木道を活用し、自然再生の取り組みを伝え、住民参加の促進を図るための環境学習を、サロベツ川放水路南側湿原及び泥炭採掘跡地抑制回復試験地において、それぞれで各１回、計２回実施した。

(1) 企画立案と実施計画の作成

環境学習の実施に際して、事前に開催の趣旨、全体スケジュール、参加者募集方法、開催時期と規模、環境学習の内容等について実施計画書を作成した。実施計画を次頁以降に示した。

サロベツ・エコモー・ツアー

自然再生の現場を見に行こう！

（自然再生事業地における
環境学習実施計画書）

平成 25 年 9 月

特定非営利活動法人　サロベツ・エコ・ネットワーク

１．開催趣旨

サロベツ原野では、平成 17 年に設立した上サロベツ自然再生協議会により「湿原の自然再生」「農業の振興」「地域づくり」を目標とした自然再生事業が行われている。これら自然再生への取り組みを持続的なものにするためには、地域全体での協力した取り組みや、上サロベツならではの特徴ある地域づくりを進めていくことが必要である。

「サロベツ・エコモー・ツアー　自然再生の現場を見に行こう！」において、通常は立ち入ることができない自然再生事業地まで地域住民を案内し、自然再生事業の背景や事業目的、また、これまでの成果や今後の展望などについて詳細に紹介することにより、広く地域の方々の自然再生事業への関心を高め、地域における理解者を増やしていくことを目的とする。

２．開催要項

〈サロベツ・エコモー・ツアー（以下、環境学習ツアー）のねらい 〉

環境学習ツアー開催のねらいは以下の 5 項目である。

①サロベツ自然再生事業に対する住民意識の向上

環境学習ツアーを通じて、参加した地元住民が上サロベツ地域で行われている自然再生事業についての意識を向上してもらえるようにする。

②サロベツの自然環境保全に関する住民参加活動の推進

環境学習ツアーに参加することにより自然環境の保全に対する意識が高まり、将来的に行政だけでなく地元住民が主体となった活動が展開されていくことを期待する。

③上サロベツ自然再生事業、自然環境保全に関する情報発信

環境学習ツアー開催を通じて、地元住民に対して自然再生事業に関する情報発信を行う。また、環境学習ツアーに参加した地元住民が自らの体験を周囲に発信することにより、不参加の住民に対しても自然再生事業に関する住民意識の向上が期待される。

④サロベツの自然環境保全に関する持続的活動の推進

環境学習ツアーを通じて、自然環境保全活動が地元住民に定着し、持続的な活動へと発展していくことを期待する。

⑤サロベツの自然環境保全に関する人材の育成

環境学習ツアーによって、サロベツの自然環境保全活動に関する人材が育ち、彼らが持続的な活動をリードしていくことを期待する。

〈全体スケジュール 〉

環境学習ツアーに関するスケジュールを以下に示す。

表-8.1 自然再生事業地における環境学習工程表

工　種	9月			10月			11月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
企画立案・実施計画									
事前の広報活動	広報準備	プレスリリース		広報準備	プレスリリース				
環境学習の資料作成									
当日の運営			第1回環境学習開催			第2回環境学習開催			
実施結果の取りまとめ									

〈参加者募集 〉

環境学習ツアー開催の主旨に則り自然再生事業に興味のある地域の住民から、広く参加を募ることが重要である。また、サロベツ・エコモー・プロジェクトの関係者にも積極的に参加してもらえるように、重点的に周知を行うこととする。なお、環境学習ツアーの参加者規模としては、調査用木道を歩く場合の安全確保などを考慮して関係者も含めて 15～20 名程度を想定する。

1．広く一般公募（プレスリリース・掲示等による）

2．サロベツ・エコモー・プロジェクト活動実施者（エコモー☆メンバー）

3．サロベツ・エコモー・プロジェクトの運営支援組織（エコモー☆サポーター）

〈開催場所〉

今回の環境学習ツアーの見学地は、環境省が自然再生事業を進めている以下の２箇所について行う。

①サロベツ川放水路南側湿原、調査用木道（落合沼などが観察できる）

②泥炭採掘跡地植生回復試験地、調査用木道

〈開催時期、規模〉

サロベツ川放水路南側湿原の調査用木道は延長が長く、移動時間が多くかかり（往復１時間以上）、また開催時期は気温が低くなる可能性のある時期であるため、長時間の野外活動は参加者にとって負担になることも考えられる。さらに、昼食を挟む環境学習ツアーの場合は、参加者の拘束時間が長くなるため敬遠されがちである。したがって、サロベツ湿原センターでの事前レクチャー時間と現地見学時間を合わせても、誰でも気軽に参加しやすい半日(午前中)程度で終了する環境学習ツアーが望ましいと考えられる。

以上のことから、２つの事業地を別々の日に見学する２本立ての環境学習ツアーとして実施する。なお、開催時期は、準備期間も考慮して９月 21 日（土）以降から選定した(表-8.2 参照)。さらに、10 月 14 日（月・祝）にサロベツ湿原センターで開催予定の自然再生事業に関するイベントの前後に設定することを基本とし、参加者が期待できる週末で、かつ、地元行事や湿原センターのイベント開催日を出来るだけ避けて候補日を選定した。その結果、環境学習ツアーは、第１回を９月 28 日(土)、第２回を 10 月 19 日(土)に計画する。また、荒天等による順延予備日はそれぞれ翌日の９月 29 日(日)および 10 月 20 日(日)に設定した。

表-8.2 環境学習ツアー開催日の選定表

月	日（曜日）	他のイベント等の有無	判　定	備　考
9	21（土）	なし	▲	開催までの準備期間が短過ぎるため
	22（日）	市民自然講座（地元ＮＰＯ主催）	×	他のイベントと重なる。
	23（月・祝）	高校学校行事	×	他のイベントと重なる。
	28（土）	なし	◎	**第1回開催予定日**
	29（日）	なし	○	**順延予定日**
10	5日（土）	子供体験活動（教育委員会主査）	×	他のイベントと重なる。
	6日（日）	外来種駆除活動（地元ＮＰＯ主催）	×	他のイベントと重なる。
	12日（土）	高校学校行事	×	他のイベントと重なる。
	13日（日）	高校学校行事	×	他のイベントと重なる。
	14日（月・祝）	エコモーDay予定日	ー	
	19日（土）	なし	◎	**第2回開催予定日**
	20日（日）	なし	○	**順延予定日**
	26日（土）	豊富町民文化（教育委員会主催）	×	他のイベントと重なる。
	27日（日）	豊富町民文化（教育委員会主催）	×	他のイベントと重なる。

３．環境学習ツアー内容

環境学習ツアー内容は、以下を計画する。

〈第１回　9 月 28 日（土）9：30～12：30〉

表-8.3 第１回環境学習ツアータイムテーブル

時　刻	時間	項　目	手配者 担当者	備　考
9:15	15 分	受付	受注者	
9:30	5 分	開会・開会挨拶	稚内自然保護官事務所	
9:35	35 分	事前学習 （当日の流れ等のオリエンテーション・自然再生事業紹介）	稚内自然保護官事務所 受注者	湿原センター内
10:10	5 分	休憩・移動準備	受注者	
10:15	5 分	フィールドへ移動（バス使用）	受注者	サロベツ川放水路南側湿原
10:20	100 分	フィールド活動（徒歩） （10:30 緩衝帯 11:00 落合沼 11:15 水抜き水路・放水路）	受注者	
12:00	5 分	湿原センターへ移動（バス使用）	受注者	
12:05	5 分	休憩	―	
12:10	15 分	意見交換・アンケート回答	受注者	
12:25	5 分	閉会挨拶・12:30 閉会	稚内自然保護官事務所	

〈第２回　10 月 19 日（土）13：00～16：15〉

表-8.4 第２回環境学習ツアータイムテーブル

時　刻	時間	項　　目	手配者 担当者	備　考
12:45	15 分	受付	受注者	
13:00	5 分	開会・開会挨拶	稚内自然保護官事務所	
13:05	35 分	事前学習 （当日の流れ等のオリエンテーション・自然再生事業紹介）	稚内自然保護官事務所 受注者	湿原センター内
13:40	5 分	休憩・準備	受注者	
13:45	70 分	フィールド活動（徒歩）	受注者	泥炭採掘跡地
14:55	5 分	休憩	受注者	
15:00	5 分	ニッテンピート工場へ移動（バス使用）	受注者	
15:05	40 分	フィールド活動（ニッテンピート工場見学)	受注者	ニッテンピート
15:45	5 分	湿原センターへ移動（バス使用）	受注者	
15:50	5 分	休憩	―	
15:55	15 分	意見交換・アンケート回答	受注者	
16:10	5 分	閉会挨拶・16:15 閉会	稚内自然保護官事務所	

4. 機材等準備

環境学習ツアーにおける機材等準備は下表に示すとおりである。機材等は、原則的に受注者が手配、準備する。

表-8.5 環境学習ツアーの機材準備一覧表

準　備　品	数　　量	備　　考
配布資料①	20 部/回 (自然再生事業地マップ)	現地で使用
配布資料②	20 部/回（事前レクチャー用資料）	湿原センターで使用
受付名簿	１部/回	
筆記用具	15 セット/回	アンケート記入用
アンケート用紙	15 枚	
白のネーム用テープ	1 式	
デジタルカメラ	1 台	
プロジェクター	1 台	事前レクチャー用
ノートＰＣ	1 台	事前レクチャー用
長靴	数足	貸出用
雨具	数着	貸出用
双眼鏡	20 個	貸出用
デジタルカメラ	3 台	記録用
応急セット	1 式	
クマスプレー	2 個	
発信器	15 台/回	現地において説明者が使用
レシーバー	15 台/回	参加者が使用 イヤホンマイク
ガイド用指し棒・写真	1 式	現地説明用
噴霧器・消毒液	1 式	口蹄疫対策
足洗いマット・洗車ブラシ・プール・水ポリタンク	1 式	外来種子持込防止対策

(2) 事前の広報活動

広報については下表に示すように、宗谷管内在住者、豊富町在住者、広域を対象にそれぞれの広報方法で実施した。環境学習ツアーの開催要項が広報先に浸透するよう２週間前を目処に広報を実施した。プレスリリース資料および掲示チラシ等を次頁以降に示す。

表-8.6 広報の範囲と方法一覧表

対　象　者	広　報　方　法
宗谷管内在住者 （稚内市他）	マスコミ各社へのプレスリリース （北海道新聞社・日刊宗谷・NHKなど）
豊富町在住者	豊富町内主要施設へのポスター掲示
広　　域	関係者に対するメール発信 ホームページへの掲載

表-8.7 ポスター掲示先一覧表

No.	施設名	チラシサイズ	枚数	掲示日		掲示を許可した者
				第1回	第2回	
1	サロベツ湿原センター	A3	1	9/14	10/4	自然保護官
2	豊富町共同福祉施設	A4	1	9/14	10/4	NPO事務局長
3	セイコーマート　とよとみ店	A4	1	9/14	10/4	店主
4	セイコーマート　エベコロ店	A4	1	9/14	10/4	店主
5	豊富フードセンター	A3	1	9/14	10/4	店員
6	サロベツマイハート　夢工房	A4	1	9/14	10/4	店主
7	沿岸バス豊富営業所	A3	1	9/14	10/4	受付窓口職員
8	ミート＆フーズうえの	A4	1	9/14	10/4	店主
9	豊富町社会福祉協議会	A4	1	9/14	10/4	協議会職員
10	豊富町町民センター	A3	1	9/14	10/4	町教委職員
11	豊富町スポーツセンター	A4	1	9/14	10/4	受付窓口職員
12	豊富駅	A3	1	9/14	10/4	観光協会職員
13	豊富町観光情報センター	A3	1	9/14	10/4	観光協会職員
14	豊富温泉ふれあいセンター	A3	1	9/14	10/4	受付職員
15	豊富温泉コンシェルジュデスク	A3	1	9/14	10/4	温泉コンシェルジュ
16	ホテルニュー温泉閣	A4	1	9/14	10/4	店主
17	豊富高校	A4	1	9/14	10/4	事務員
18	豊富中学校	A4	1	9/14	10/4	事務員
19	豊富小学校	A4	1	9/14	10/4	事務員
20	餅カフェ　わが家	A4	1	9/14	10/4	店主
21	豊富町定住支援センター　ふらっときた	A3	1	9/14	10/4	受付職員



沿岸バス豊富営業所の掲示



豊富フードセンターの掲示



豊富町民センターの掲示



豊富観光情報センターの掲示



JR 豊富駅の掲示

プレスリリース資料
（第１回環境学習ツアー）

平成 25 年 9 月 14 日
環境省稚内自然保護官事務所

関係各位

お知らせ

＜件名＞『サロベツ・エコモー・ツアー2013　第１回　～幻の落合沼へ！！～』
参加者募集について

＜お知らせ内容＞
環境省稚内自然保護官事務所では、平成 17 年度より環境省などが取り組んでいる上サロベツ自然再生事業について広く一般の方々に知っていただくためのイベントとして、「サロベツ・エコモー・ツアー2013」を開催致します。
当日は、サロベツ湿原センターにて上サロベツ自然再生協議会の取り組み概要に関する説明を受けた後、ガイドの引率で自然再生事業地の一つ、「落合沼」を見学します。
普段は立ち入ることができない調査用木道を特別に通行し、現地を見学するツアーですので、自然再生の現状を知っていただく貴重な機会です。
なお、自然再生事業地の見学ツアーは 10 月にかけて、全２回企画されており、今回の企画はその１回目です。周知にご協力のほど、よろしくお願い致します。

※落合沼：昭和 30 年代に放水路を掘削したことによって湿原の水が流出し、かつてあった落合沼は失われていましたが、自然再生事業の取り組みの１つとして、かつて掘られた水抜き水路を埋め戻した結果、落合沼が復活し、水鳥などが訪れるようになりました。

＜行事の内容等について＞
●開　催　日：平成 25 年 9 月 28 日（土）9:30～12:30 頃まで
※荒天時は、翌日 9 月 29 日(日)に延期とし、朝 8 時に参加者に連絡します。
●集 合 場所：サロベツ湿原センター内エントランス　9：30
●参　加　費：無料（定員 15 名・先着順）
●持物・服装：防寒着（汚れても良い、動きやすい服装）・長靴
●申込 期 限：9 月 25 日（水）

＜予告＞
第２回：10 月 19 日（土）　泥炭採掘跡地見学ツアー

＜お問合せ・お申し込み先＞
サロベツ湿原センター　　TEL：0162-82-3232　FAX：0162-82-1009
E-mail：center@sarobetsu.or.jp
＜主　　催　　者＞
環境省稚内自然保護官事務所　TEL：0162-33-1100　FAX：0162-33-1101
E-mail：RO-WAKKANAI@env.go.jp

プレスリリース資料
（第２回環境学習ツアー）

平成 25 年 10 月 4 日
環境省稚内自然保護官事務所

関係各位

お知らせ

＜件名＞『サロベツ・エコモー・ツアー2013　第２回
～よみがえれ湿原！サロベツの泥炭採掘史と湿原の今を巡る～』
参加者募集について

＜お知らせ内容＞

環境省稚内自然保護官事務所では、平成 17 年度より環境省などが取り組んでいる上サロベツ自然再生事業について広く一般の方々に知っていただくためのイベントとして、「サロベツ・エコモー・ツアー2013」を開催致します。

当日は、サロベツ湿原センターにて上サロベツ自然再生協議会の取り組み概要に関する説明を受けた後、環境省レンジャーと NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワークの自然ガイドが引率し、サロベツ湿原センターの南東部にある「泥炭採掘跡地」を見学します。また、ツアー後半には、現在もサロベツで泥炭採掘が行われている「日甜豊富工場」を見学します。

普段は立ち入ることができない調査用木道を特別に通行し、現地を見学するツアーですので、自然再生の現状を知っていただく貴重な機会です。

なお、自然再生事業地の見学ツアーは、9 月 28 日に行われた『サロベツ・エコモー・ツアー2013　第 1 回　～幻の落合沼へ！！～』に続いて行われ、今年は今回が最後のツアーとなります。周知にご協力の程よろしくお願い致します。

※泥炭採掘跡地：

サロベツ湿原センターの南東部では、1970 年から 2003 年までの間、湿原の泥炭採掘が行われ、畑などで用いる土壌改良材などが生産されていました。泥炭採掘は、採掘開始時の高層湿原面積の約 16%に当たる 150ha あまりの範囲におよびました。

現在では、泥炭採掘跡地に湿原の植生を再生するため、環境省などによる自然再生事業が行われています。

＜行事の内容等について＞

●開　催　日：平成 25 年 10 月 19 日（土）13:00～16:00 頃まで
※荒天時は、翌日 10 月 20 日(日)に延期とし、朝 8 時に参加者に連絡します。
●集 合 場所：サロベツ湿原センター内エントランス　13：00
●参　加　費：無料（定員 15 名・先着順）
●持物・服装：防寒着（汚れても良い、動きやすい服装）・長靴
●申込 期 限：10 月 18 日（金）

＜お問合せ・お申し込み先＞

サロベツ湿原センター　　TEL：0162-82-3232　FAX：0162-82-1009
E-mail：center@sarobetsu.or.jp

＜主　　催　　者＞

環境省稚内自然保護官事務所　TEL：0162-33-1100　FAX：0162-33-1101
E-mail：RO-WAKKANAI@env.go.jp

ポスター表面（掲示用チラシと兼用）

昭和30年代の放水路掘削の影響で一度消失した落合沼が自然再生事業によって復活しました



サロベツ・エコモー・ツアー 2013

幻の落合沼へ！！

9月28日(土)開催！ 集合場所 サロベツ湿原センター
※荒天の場合、翌9月29日(日)に延期
9:30集合　12:30解散

参　加　費　：無料（定員15名）　　申込期限：9月25日（水）

持物・服装　：防寒具（汚れても良い、動きやすい服装）、雨具、長靴

申込先

サロベツ湿原センター　〒098-4100　天塩郡豊富町上サロベツ8662
tel：0162-82-3232　fax：0162-82-1009　mail：center@sarobetsu.or.jp

主催：環境省稚内自然保護官事務所

サロベツ・エコモー・ツアー 2013

普段は立ち入れない調査用
木道から自然再生の最前線へ
レンジャーと自然ガイドがご案内します！！



参加費
無料！

サロベツ湿原では、かつての開拓の影響により湿原の乾燥化など様々な問題が起きています。このため、「湿原と農業の共生」を目指して自然再生の取り組みが始まっています。

よみがえれ湿原！サロベツの泥炭採掘史と湿原の今を巡る

かつての泥炭採掘地跡地に再生中の湿原と、現在も稼働している豊富町内の泥炭採掘工場を見学。
湿原の利用と保全・再生のこれからについて、みんなで考えるツアーです。

10月19日(土)開催！ 集合場所 サロベツ湿原センター
※荒天の場合、翌10月20日(日)に延期　13:00 集合　16:00頃解散

参 加 費 ： 無料(定員15名)　　申込期限：10月18日(金)
持物・服装 ： 防寒具(汚れても良い、動きやすい服装)、雨具、長靴

申込先
サロベツ湿原センター 〒098-4100 天塩郡豊富町上サロベツ8662
tel:0162-82-3232 fax:0162-82-1009 mail:center@sarobetsu.or.jp

主催：環境省稚内自然保護官事務所

裏面（申込用紙）

▲

サロベツ湿原センター宛

FAX：0162-82-1009

メール：center@sarobetsu.or.jp

サロベツ・エコモー・ツアー 2013
奇跡の再生湿原へ！！
参加申込用紙

住所				
電話				
携帯電話	（中止時に連絡を取るため）			
メール				
フリガナ 氏　名		年齢	性別	長靴が用意できない方は貸し出しますので、サイズをご記入下さい

ニッテンピートへの協力依頼文

平成 25 年 10 月 1 日

日本甜菜製糖株式会社
紙筒事業部長　殿

環境省稚内自然保護官事務所
自然保護官　中島信人
NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク
代表理事　　高瀬　清

ニッテンピート工場見学の受入につきまして（ご依頼）

中秋の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、サロベツ地域では平成 17 年度より①湿原の自然再生、②農業の振興、③地域づくりを目指す上サロベツ自然再生協議会が設立され、現在は地域住民・関係行政機関・NPO団体などにより様々な取り組みが行われております。その活動の一環として、地域における自然再生事業の普及を図るため、昨年度より自然再生事業地や地域の産業（牧場など）を訪ねる環境学習ツアーを行っています。

この環境学習ツアーの中では、サロベツの豊かな自然環境と、過去から現在における湿原と人々の関わり、また自然再生事業が行われている現地を見学（今年度は三井東圧による泥炭採掘跡地の植生回復試験地）する予定となっており、泥炭の産業利用に関連して現在も操業されている御社でサロベツの泥炭採掘の歴史と利活用について学習したいため、工場見学のご依頼をさせていただきました。

つきましては、下記日程で貴工場を訪問させていただき、泥炭採掘の方法、機械類と製造工程、製品などについて基本的なお話をお聞かせいただければ幸いです。ご検討下さいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

記

訪問日時：平成 25 年 10 月 19 日（土）　　午前または午後の1時間程度
※詳細については事前に打ち合わせの上、決定させていただけましたら幸いです
人　　数：20 名（一般 15 名 +関係者 5 名）

連絡先：NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク
事務局長　嶋崎　暁啓
〒098-4122　天塩郡豊富町字豊富東 2 条 5 丁目
TEL:0162-82-3950　e-mail:shimazaki@sarobetsu.or.jp

(3) 学習資料の作成

各環境学習ツアー開催に際して、事前学習としてサロベツ湿原の基礎知識のオリエンテーションおよび自然再生事業紹介を行った。作成した学習資料は資料編の「9.1 環境学習用資料(事前学習)」に示した。

(4) 当日の運営

環境学習ツアーの当日は、前出のタイムテーブルに示した時間配分および担当者に従って事前学習および野外学習ツアー等を実施した。なお、環境学習に際しては、事前に現地踏査を実施して下記の作業を実施した。また、各環境学習の様子を画像で次頁以降に示した。

<第 1 回環境学習実施日前の作業>

・環境学習ツアー前の 9 月 25 日に現地の下見を行った。

・調査用木道から落合沼までの区間において、周囲の草本の繁茂が著しい部分について除草作業を実施した。

・調査用木道が敷設されていないサロベツ川放水路までの区間において歩きやすいように除草作業を実施した。

<第 2 回環境学習実施日前の作業>

・環境学習ツアー前の 10 月 17 日に現地の下見を行った。

・調査用木道が始まるまでの区間において、歩きやすいように除草作業を実施した。

・当日予定されるルートを確認して足場の安定性を確認した。

<第１回環境学習ツアー・事前レクチャー>



開会の挨拶



サロベツ湿原についての学習



自然再生事業に関する学習

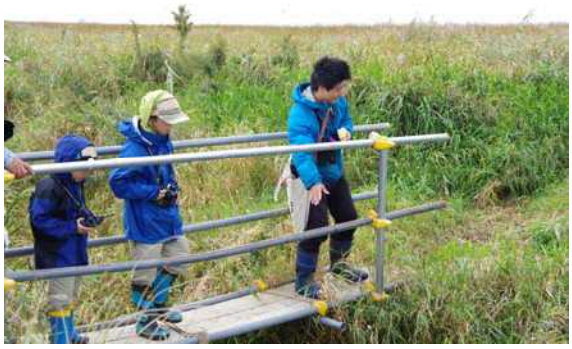
<第１回環境学習ツアー・野外活動>



長靴を口蹄疫対策のために消毒し
牧草地の端を通行して調査用木道へ



牧草地にて地域の酪農業の紹介



緩衝帯を渡る際に新排水路を説明



緩衝帯の説明と旧排水路の確認



水位が高く保たれた旧排水路



木道を歩いて落合沼へ向かう



途中でエゾリンドウの花などを観察



落合沼を見学する参加者



落合沼



落合沼での説明



サロベツ川放水路



サロベツ川放水路での説明



渡り鳥に関する解説



オオヒシクイのＶ字編隊

<第１回環境学習ツアー、まとめ、アンケート記入>



他の季節の様子を解説



アンケート回答中



アンケート回答中



閉会の挨拶

<第 2 回環境学習ツアー・事前レクチャー>



開会の挨拶



サロベツ湿原についての学習



自然再生事業に関する学習

<第 2 回環境学習ツアー・野外活動>



航空写真で事業地の説明



説明を聞く参加者



外来種子持込防止のための洗浄



木道を歩いて自然再生事業地へ



オオヒシクイとマガンのＶ字編隊



自然再生事業地を見学



泥炭採掘跡地植生回復試験地



航空写真を使用した解説



参加者で記念撮影



バスでニッテンピート工場へ移動



工場担当者からの説明を受ける



泥炭を粉砕する機械



製品化の過程を説明



袋詰工程や製品に関する説明

<第 2 回環境学習・意見交換会、アンケート記入>



アンケート回答中



工場操業時のビデオを見る

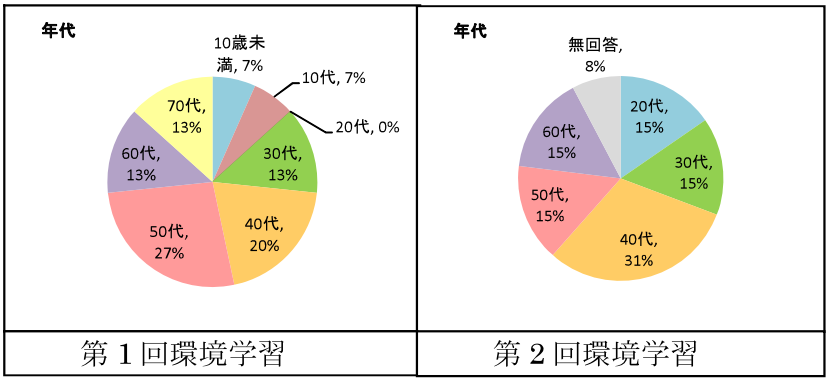
(5) 実施結果の取りまとめ

環境学習の参加者数は下表に示すように、第 1 回 15 名、第 2 回 13 名であった。この他に説明要員、記録要員および安全確保等のための関係者として第 1 回は 3 名（発注者 1 名、受注者 2 名）、第 2 回は 5 名(発注者 2 名、受注者 3 名)が随行した。参加者の性別内訳は、いずれも男性が過半数を占めているが、特に第 1 回でその割合が高くなっている。チラシの「普段立ち入れない調査用木道から自然再生の最前線をご案内します！」というキャッチコピーが、女性よりも男性の興味を強く引いた可能性が考えられる。住所別の内訳では、第 1 回は地元の豊富町と稚内市が同数、第 2 回は稚内市が過半数を占めた。第 2 回は午後からの開催であったので、距離のある稚内市からも参加しやすかったものと考えられる。その他、第 1 回では天塩町から 3 名の参加があったが、いずれもサロベツ湿原センターによく訪れている利用者であった。第 2 回では、札幌市と広島県からの参加があったことが特筆される。前者はこの環境学習に参加することのみを目的に来訪した大学生であり、後者は豊富温泉に長期滞在している湯治客であった。

表-8. 8　環境学習参加者の集計

区分	開催日	参加者数合計	性別内訳		住所別内訳				備考
			男	女	豊富町	稚内市	その他道内	道外	
第1回	H25.9.28	15	12	3	6	6	3	0	その他道内は3名とも天塩町
第2回	H25.10.19	13	8	5	3	8	1	1	その他道内1名は札幌市、道外1名は広島県。3名は前回も参加

参加者の年代別内訳は右図に示すとおりである。第 1 回では 40 代及び 50 代がそれぞれ 20%以上を占めた。また、10 歳未満及び 10 代から、70 代まで幅広い年代構成となった。一方、第 2 回では、40 代が 31%と最も多く、20 代、30 代、50 代、60 代がそれぞれ 15%となった。第 1 回は「再生された沼を見に行く」という視覚的にわかりやすいテーマであったことから、家族連れや高齢者の参加が促進されたのに対して、第 2 回は「泥炭採掘の歴史と現在を見る」という比較的イメージしにくいテーマであったことから、再生事業そのものに興味のある方を中心とした参加になったことが考えられる。



第 1 回環境学習　　第 2 回環境学習

環境学習終了後に、今後の環境学習の在り方を考える際の参考とする目的でアンケートを実施した。アンケート用紙は資料編 9-2 に示した。

<第 1 回環境学習アンケート結果>

アンケートは参加者 15 名を対象に実施し、回収率 73%であった。

(問 1)あなたは、本日の「サロベツ・エコモー・ツアー」について何で知りましたか?

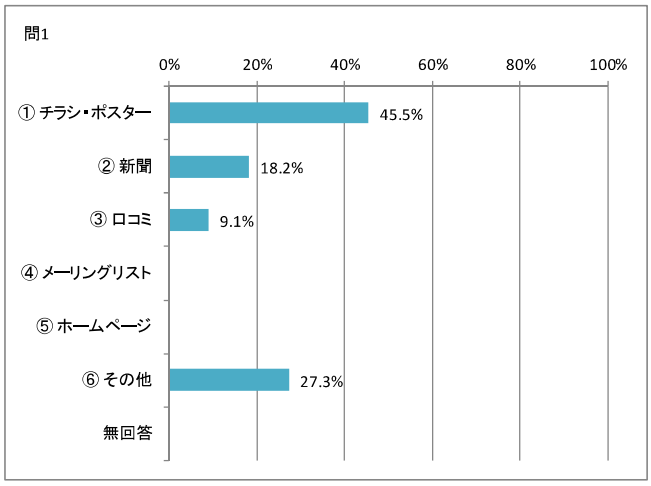
広報効果を確認する意味合いの設問である。「チラシ・ポスター」により今回の環境学習を知った方が半数近くを占めた。告知手段としては地道ながらも、最も有効な方法と考えられる。

問1：あなたは、本日の「サロベツ・エコモー・ツアー」について、何で知りましたか？

	回答数	割合
① チラシ・ポスター	5	45.5%
② 新聞	2	18.2%
③ 口コミ	1	9.1%
④ メーリングリスト	0	
⑤ ホームページ	0	
⑥ その他	3	27.3%
無回答	0	
回答者数	11	

【その他の内容】

サロベツ湿原センターでの自然学習講座にて
妻から聞いた



(問 2)本日の「サロベツ・エコモー・ツアー」で、興味をひいたものは何ですか?

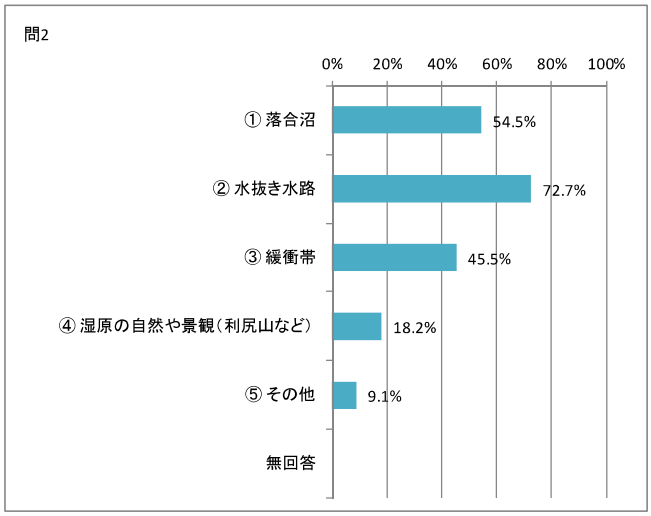
環境学習の主催者側の「ねらい」がどれほど受け入れられているかを知るための設問である。複数回答で、今回のツアーの目玉である「水抜き水路 72.7%」、「落合沼 54.5%」および「緩衝帯 45.5%」が高い回答率となっており、これらについての理解が深まった事が期待できる回答となっている。

問2：本日の「サロベツ・エコモー・ツアー」で、興味をひいたものは何ですか？（複数回答可）

	回答数	割合
① 落合沼	6	54.5%
② 水抜き水路	8	72.7%
③ 緩衝帯	5	45.5%
④ 湿原の自然や景観（利尻山など）	2	18.2%
⑤ その他	1	9.1%
無回答	0	
回答者数	11	

【その他の内容】

とのさまバッタ

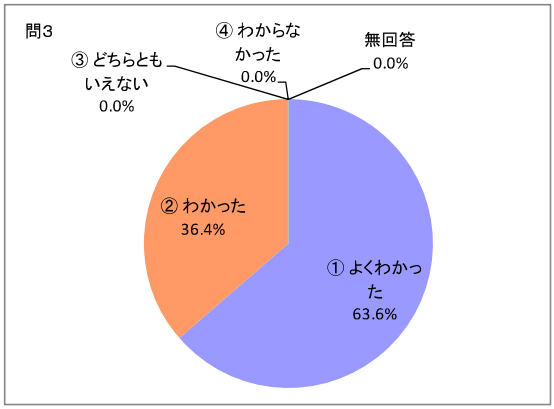


(問 3)「サロベツ・エコモー・ツアー」に参加して、サロベツ自然再生事業についてわかりましたか?

環境学習に参加することにより自然再生事業についての理解が深まったかを質問している。「よくわかった 63.6%」および「わかった 36.4%」で 100%となり、環境学習の効果は十分にあったと評価できる。

問3:「サロベツ・エコモー・ツアー」に参加して、サロベツ自然再生事業についてわかりましたか?(一つだけ)

	回答数	割合
① よくわかった	7	63.6%
② わかった	4	36.4%
③ どちらともいえない	0	
④ わからなかった	0	
無回答	0	
合計	11	

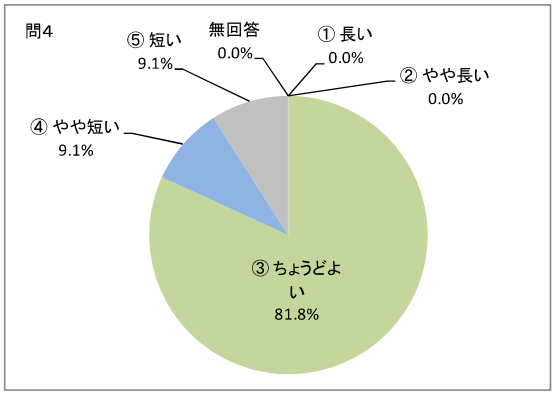


(問 4)「サロベツ・エコモー・ツアー」の実施時間はいかがでしたか?

環境学習は午前中の約 2 時間半で実施した。環境学習の時間として「ちょうどよい 81.8%」結果となっている。一方、「やや短い」、「短い」(ともに 9.1%)との意見もあり、フィールドでの活動時間が 1 時間程度であったため、短く感じた可能性がある。いずれにしても、半日程度の工程が好ましいと言える。

問4:「サロベツ・エコモー・ツアー」の実施時間はいかがでしたか?(一つだけ)

	回答数	割合
① 長い	0	
② やや長い	0	
③ ちょうどよい	9	81.8%
④ やや短い	1	9.1%
⑤ 短い	1	9.1%
無回答	0	
合計	11	

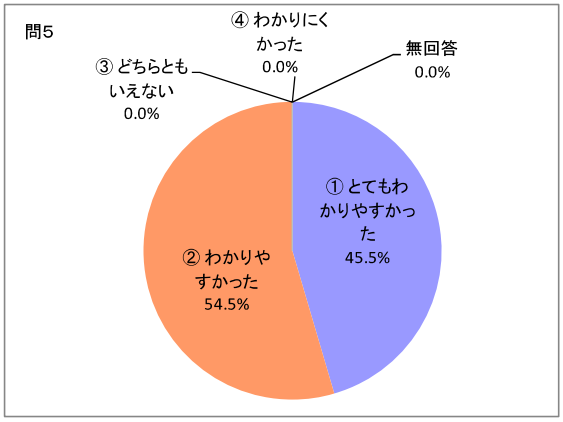


(問 5)「サロベツ・エコモー・ツアー」でのガイドの説明はわかりやすかったですか?

環境学習のガイドの説明は、「とてもわかりやすかった 45.5%」と「わかりやすかった 54.5%」を合わせると 100%となり、高く評価されていると解釈できる。「とてもわかりやすかった」が過半数となるよう、今後も説明の工夫が必要である。

問5:「サロベツ・エコモー・ツアー」でのガイドの説明はわかりやすかったですか?(一つだけ)

	回答数	割合
① とてもわかりやすかった	5	45.5%
② わかりやすかった	6	54.5%
③ どちらともいえない	0	
④ わかりにくかった	0	
無回答	0	
合計	11	

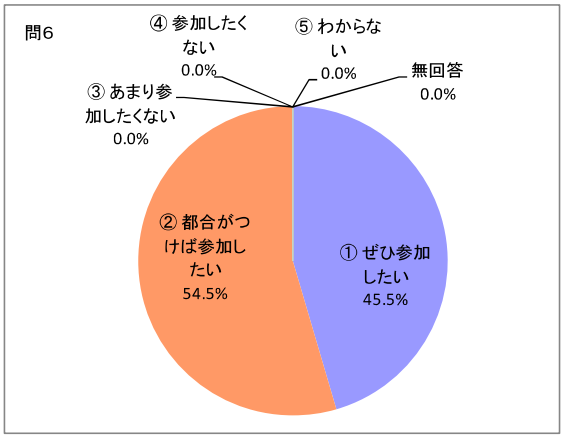


(問 6)今後もこのようなツアーがあった場合、参加したいと思いますか?

今後の参加の意向を質問した。「ぜひ参加したい 45.5%」及び「都合がつけば参加したい 54.5%」と、今回の環境学習が好評であったことがうかがえる。また、「都合がつけば参加したい」が過半数であることから、早めの広報が必要であると言える。

問6:今後もこのようなツアーがあった場合、参加したいと思いますか?(一つだけ)

	回答数	割合
① ぜひ参加したい	5	45.5%
② 都合がつけば参加したい	6	54.5%
③ あまり参加したくない	0	
④ 参加したくない	0	
⑤ わからない	0	
無回答	0	
合計	11	



(問 7)上記の問 6 で、あなたがそのように回答した理由はなぜですか?

問 6 の参加したい理由を自由回答形式で質問した結果を以下に示す。「ぜひ参加したい」、「都合がつけば参加したい」の理由に「地域の自然をもっと知りたい」「自然再生についてもっと知りたい」「普段目にすることができない場所を訪ねられる」といった内容の記載があり、今後も同様の環境学習の機会が求められていることがうかがえる。

問7：問6（今後もこのような自然再生ツアーがあった場合、参加したいと思いますか？）の回答理由

記述内容	問6の回答
もっともっとサロベツを知りたいから	ぜひ参加したい
サロベツの自然再生をみたいので	
自然再生の取組について知りたい為	
泥炭地の活用に興味があるので	
バッタのことやいろんなことをおしえてもらったから	
業務及び私用との調整によるため	都合がつけば参加したい
自然環境再生は、道北だけに必要なモノではないので、そのノウハウなどを見て他所と比較したい	
普段目にすることができない場所を訪ねられるため	
地域の自然のいろいろなことを知りたい	

(問 8)ツアー全体を通して、ご意見・ご感想があればお書きください。

全体的に、前向き・高評価な意見が多かった。「多人数の時聞きづらい」との意見については、フィールドの特性上難しいところはあるが、改善を要する点である。「見学の他に作業できる項目があればより良いツアーになる」との意見があり、このような作業体験などを取り入れることが、今後の環境学習の実施に際しての課題であるといえる。

問8：ツアー全体を通して、ご意見・ご感想があればお書きください

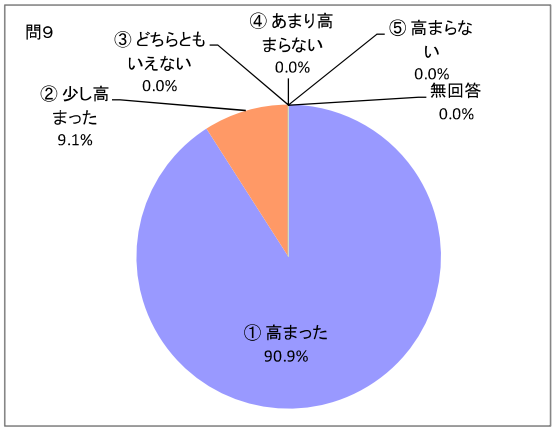
記述内容
見学の他に何か作業できる項目があればより良いツアーになると感じました。
ハンノキの生育状況等指標となる（湿原の乾燥化）ものがあれば知りたい
準備御苦労様でした
夏の野鳥の渡りの時期に落合沼に入ってその生態や生息状況を見てみたい
天気がよければ、もっと良かったです
もっといろんなところいきたい
フィールドでの解説について、多人数のとき聞きづらいので工夫をして欲しい
花の多い時期には魅せるツアーで、花の少ない時期はこのような少し考えるきっかけができるツアーを実施して頂けると良いと思います
良かった

(問 9)サロベツ自然再生事業への関心は高まりましたか?

自然再生事業への関心の高まりは、「高まった 90.9%」と「少し高まった 9.1%」の合計で 100%となっており、自然再生事業への関心を高めた効果があったことが窺える。

問9:サロベツ自然再生事業への関心は高まりましたか?(一つだけ)

	人数	割合
① 高まった	10	90.9%
② 少し高まった	1	9.1%
③ どちらともいえない	0	
④ あまり高まらない	0	
⑤ 高まらない	0	
無回答	0	
合計	11	100.0%

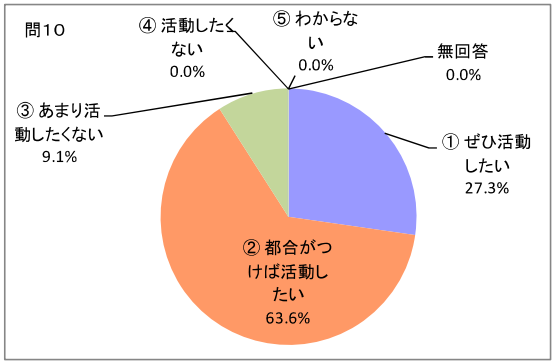


(問 10)サロベツ自然再生事業に関する活動に参加したいと思いますか?

今後、自然再生事業に関する活動への参加を質問したところ、「ぜひ活動したい 27.3%」と「都合がつけば活動したい 63.6%」の合計 90%以上となっており、農閑期や祝祭日などの都合がつきやすい時期を選定して、早めの広報を行えば参加者の拡大が期待できる回答となっている。

問10:サロベツ自然再生事業に関する活動に参加したいと思いますか?(一つだけ)

	回答数	割合
① ぜひ活動したい	3	27.3%
② 都合がつけば活動したい	7	63.6%
③ あまり活動したくない	1	9.1%
④ 活動したくない	0	
⑤ わからない	0	
無回答	0	
合計	11	



(問 11)上記の問 10 で、あなたがそのように回答した理由はなぜですか?

自然再生事業に関する活動への参加もしくは不参加の理由は、下記に示すとおりである。「あまり参加したくない」の理由として「距離の問題もあり、現実的に難しい」という回答があったが、回答者は稚内市からの参加者であった。「自然再生事業に関する活動」の指すものが今回見学した事業地のように土木的作業を伴う大掛かりなものと捉えられた可能性が高い。「身近なことからできる自然再生に関する活動」を具体的に示すことが必要であると考えられる。

問11:問10(サロベツ自然再生事業に関する活動に参加したいと思いますか?)の回答理由

記述内容	問9の回答
今まであまり知らなかったので	ぜひ活動したい
自然再生の取組について知りたい為。及び地域貢献のため。	
泥炭地と水について関心があるので	
業務及び私用との調整によるため	都合がつけば活動したい
転勤があります	
サロベツの自然を守ることは、そのまま北海道の自然を守ると同じに再生にも必要だと思ったから	
しぜんのくうきがいいから	
いろいろな事を知りたいと思います	
距離の問題もあり、現実的に難しい	あまり活動したくない

(問 12)サロベツ自然再生事業の普及に向けて、どのようなことが必要だと思いますか?

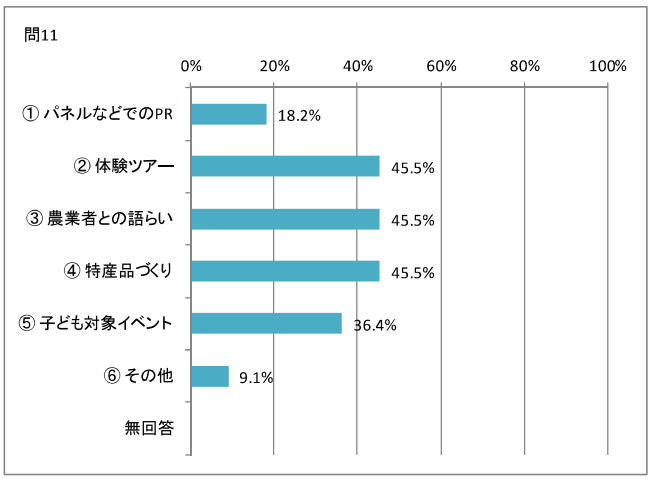
自然再生事業の普及に向けてどのようなことが必要かを複数回答で質問したところ、「体験ツアー」、「農業者との語らい」、「特産品づくり」(いずれも 45.5%)、「子ども対象イベント 36.4%」の回答を得た。農業者との語らいや特産品づくりを含めた体験を伴うツアーに対するニーズが高いことがうかがえる。

問12:サロベツ自然再生事業の普及に向けて、どのようなことが必要だと思いますか(複数回答可)

	人数	割合
① パネルなどでのPR	2	18.2%
② 体験ツアー	5	45.5%
③ 農業者との語らい	5	45.5%
④ 特産品づくり	5	45.5%
⑤ 子ども対象イベント	4	36.4%
⑥ その他	1	9.1%
無回答	0	
回答者数	11	

【その他の意見】

国へ、中央へ、より細かな現状を伝え、より支援をいただく



<第 2 回環境学習アンケート結果>

アンケートは参加者 13 名を対象に実施し、回収率 92%であった。

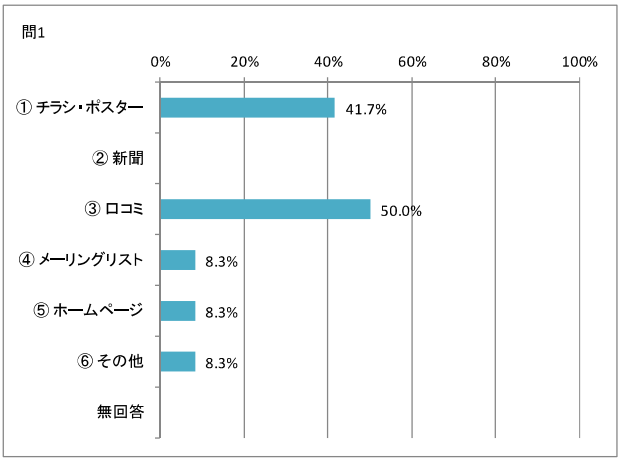
(問 1) あなたは、本日の「サロベツ・エコモー・ツアー」について何で知りましたか?

広報効果を確認する意味合いの設問である。「口コミ 50.0%」が最も多く、次いで第 1 回で最多であった「チラシ・ポスター 41.7%」となった。「チラシ・ポスター」の配布の際に声をかけた方の参加や、職場で誘い合わせての参加もあったことが「口コミ」の割合を上げたものと考えられる。まず地域住民に参加してもらうことを第一と考えると、このような地道な広報が最も効果的であると言える。

問1:あなたは、本日の「サロベツ・エコモー・ツアー」について、何で知りましたか?

	回答数	割合
① チラシ・ポスター	5	41.7%
② 新聞	0	
③ 口コミ	6	50.0%
④ メーリングリスト	1	8.3%
⑤ ホームページ	1	8.3%
⑥ その他	1	8.3%
無回答	0	
回答者数	12	

【その他の内容】
豊富温泉コンシェルジュデスクより

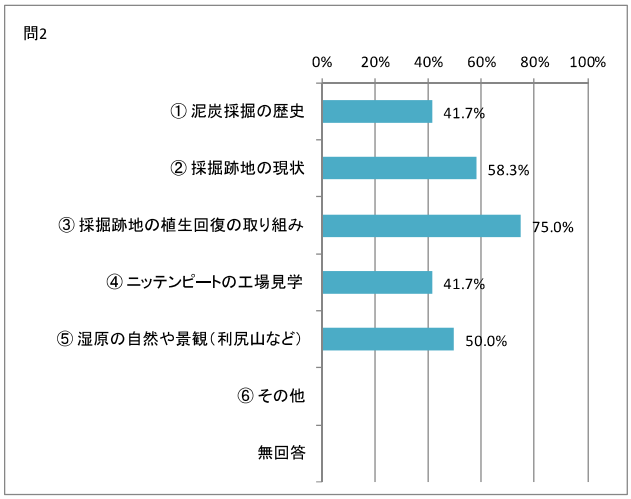


(問 2) 本日の「サロベツ・エコモー・ツアー」で、興味をひいたものは何ですか?

環境学習の主催者側の「ねらい」がどれほど受け入れられているかを知るための設問である。複数回答で、今回のツアーの目玉である「採掘跡地の植生回復の取り組み 75.0%」、「採掘跡地の現状 58.3%」が特に高い回答率となっており、これらについての理解が深まった事が期待できる回答となっている。

問2:本日の「サロベツ・エコモー・ツアー」で、興味をひいたものは何ですか?(複数回答可)

	回答数	割合
① 泥炭採掘の歴史	5	41.7%
② 採掘跡地の現状	7	58.3%
③ 採掘跡地の植生回復の取り組み	9	75.0%
④ ニッテンピートの工場見学	5	41.7%
⑤ 湿原の自然や景観(利尻山など)	6	50.0%
⑥ その他	0	
無回答	0	
回答者数	12	

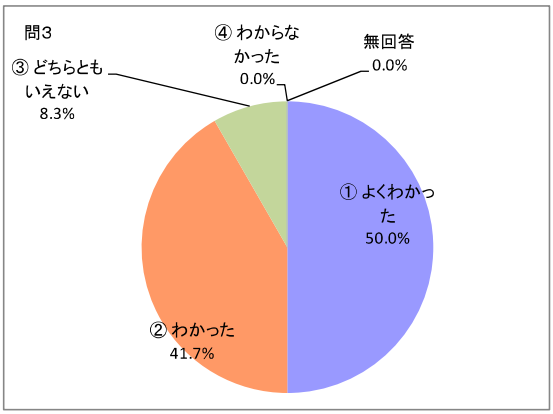


(問 3) 「サロベツ・エコモー・ツアー」に参加して、サロベツ自然再生事業についてわかりましたか?

環境学習に参加することにより自然再生事業についての理解が深まったかを質問した。「よくわかった 50.0%」および「わかった 41.7%」で 90%を超えており、環境学習が効果的であると理解できる。ただし、第 1 回の合計 100%に比べると低下している。

問3:「サロベツ・エコモー・ツアー」に参加して、サロベツ自然再生事業についてわかりましたか？(一つだけ)

	回答数	割合
① よくわかった	6	50.0%
② わかった	5	41.7%
③ どちらともいえない	1	8.3%
④ わからなかった	0	
無回答	0	
合計	12	

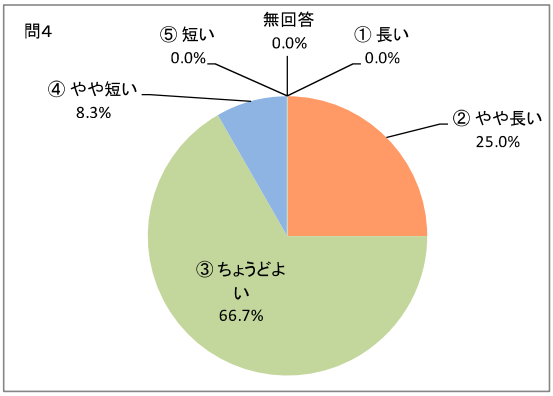


(問 4) 「サロベツ・エコモー・ツアー」の実施時間はいかがでしたか?

環境学習の時間は午後からの約 2 時間半であったが、「ちょうどよい 66.7%」、「やや長い 25.0%」「やや短い 8.3%」の結果となった。見学地を 2 箇所としたため、前半が巻き気味になり慌ただしくなり、一方で後半がやや間延びしたことが少し長く感じる要因となった可能性がある。

問4:「サロベツ・エコモー・ツアー」の実施時間はいかがでしたか？(一つだけ)

	回答数	割合
① 長い	0	
② やや長い	3	25.0%
③ ちょうどよい	8	66.7%
④ やや短い	1	8.3%
⑤ 短い	0	
無回答	0	
合計	12	

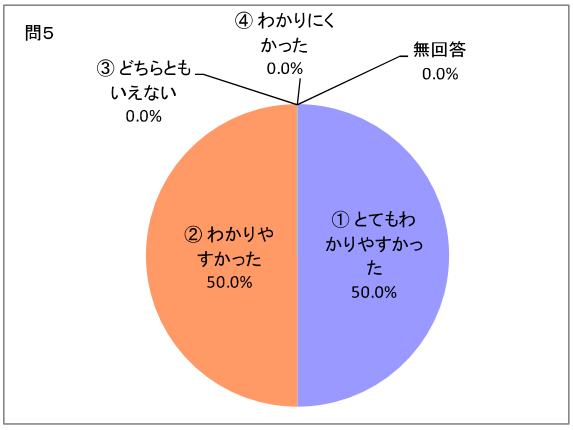


(問 5) 「サロベツ・エコモー・ツアー」でのガイドの説明はわかりやすかったですか?

環境学習のガイドの説明は、「とてもわかりやすかった 50.0%」と「わかりやすかった 50.0%」合わせて 100%となり、第 1 回と同様に高評価であった。

問5:「サロベツ・エコモー・ツアー」でのガイドの説明はわかりやすかったですか？(一つだけ)

	回答数	割合
① とてもわかりやすかった	6	50.0%
② わかりやすかった	6	50.0%
③ どちらともいえない	0	
④ わかりにくかった	0	
無回答	0	
合計	12	

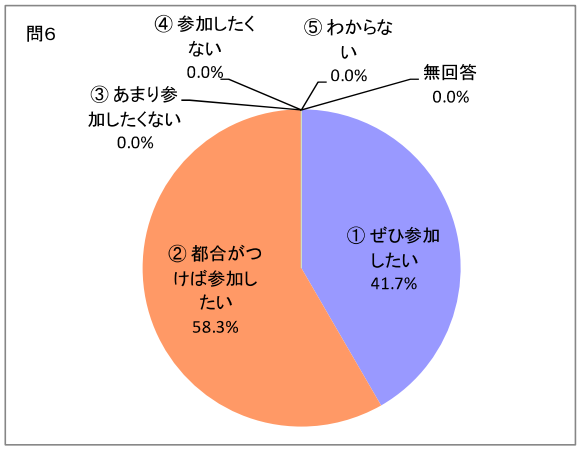


(問 6) 今後もこのような自然再生ツアーがあった場合、参加したいと思いますか?

今後の参加の意向について質問した。「ぜひ参加したい 41.7%」及び「都合がつけば参加したい 58.3%」合わせて 100%となり、今回の環境学習が好評であったことがうかがえる。

問6:今後もこのようなツアーがあった場合、参加したいと思いますか？(一つだけ)

	回答数	割合
① ぜひ参加したい	5	41.7%
② 都合がつけば参加したい	7	58.3%
③ あまり参加したくない	0	
④ 参加したくない	0	
⑤ わからない	0	
無回答	0	
合計	12	



(問 7) 上記の問 6 で、あなたがそのように回答した理由はなぜですか?

問 6 の参加したい理由を自由回答形式で質問した結果を以下に示す。「普段入ることのできない場所に行けた」「自然再生に興味がある」といった内容の記載が多く、今後も同様の環境学習の機会が求められていることがうかがえる。

問7：問6（今後もこのような自然再生ツアーがあった場合、参加したいと思いますか？）の回答理由

記述内容	問6の回答
自然再生に興味があるので	ぜひ参加したい
興味がある	
説明がとてもよかった。普段見れないところを見れた。	
日常生活では知る事のないモノを知る機会が得られるから	
サロベツ湿原を知り始めるともっとどんどん知りたくなる魅力があるので	都合がつけば参加したい
なんとなく	
地域の歴史を理解するのに良い企画だから	
サロベツについて知りたいため	
知識だけではわからない生の湿原を見れて勉強になった。	
普段入ることのできない場所に行けて特別な感じがうれしかったので。	
仕事があるので	

(問 8)ツアー全体を通して、ご意見・ご感想があればお書きください。

環境学習ツアー全般について意見を求めたところ、下記のような記載があった。全体の流れ（順序）について、フィールドでの活動時間について同様の回答がそれぞれ 2 件あり、

今後実施する際の改善のポイントであるといえる。

問8：ツアー全体を通して、ご意見・ご感想があればお書きください

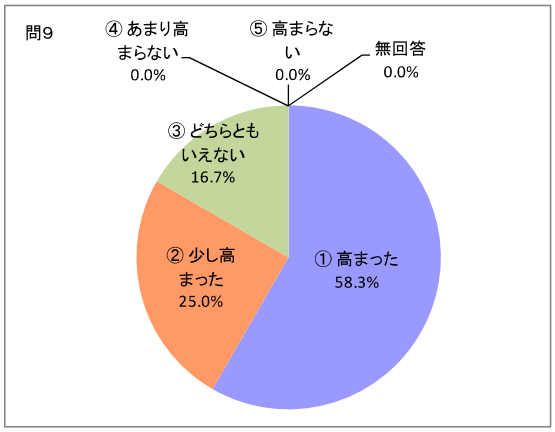
記述内容
企画御苦労様でした。
併設の泥炭産業館、浚渫船も紹介してほしかった
良かったと思います。しかし、最後のDVDは工場見学の前に見せた方が工場でもイメージする参考になったのでは。
先にピート工場に行って、その後採掘跡に行ってみては？最後のビデオがおもしろいものであるので、アンケートを書きながらではなく、うまく活用したほうがいいのでは？
楽しかったです。
とても勉強になりました。個人的にはもっとフィールドワークを多めに体験してみたかったです。
ふわふわの土の感触、よかったです。
大変満足した
通常では立ち入れない場所へ入る機会を与えて頂き有難うございました。満足しております。
ふだん行けないところなので、木道をもっとゆっくり歩いてみたかった。

(問 9) サロベツ自然再生事業への関心は高まりましたか?

自然再生事業への関心の高まりは、「高まった 58.3%」と「少し高まった 25.0%」合わせて 80%強にとどまり、第 1 回よりも少なめであった。見学地が第 1 回目のように目に見えてわかりやすい結果の出ている事業地ではなかったため、自然再生事業と直接関連付けて考えにくかった可能性が高いと考えられる。

問9:サロベツ自然再生事業への関心は高まりましたか?(一つだけ)

	人数	割合
① 高まった	7	58.3%
② 少し高まった	3	25.0%
③ どちらともいえない	2	16.7%
④ あまり高まらない	0	
⑤ 高まらない	0	
無回答	0	
合計	12	100.0%

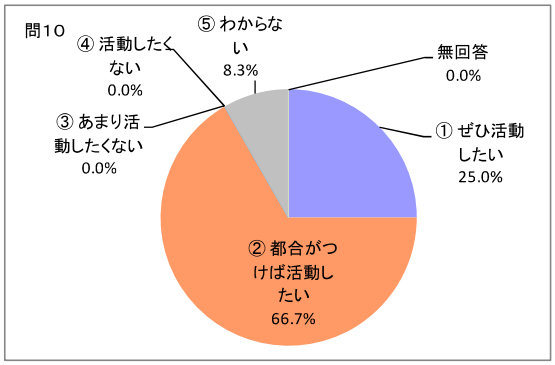


(問 10)サロベツ自然再生事業に関する活動に参加したいと思いますか?

今後、自然再生事業に関する活動への参加の意向を質問したところ、「ぜひ参加したい 25.0%」と「都合がつけば参加したい 66.7%」となり、概ね第 1 回と同様であった。

問10:サロベツ自然再生事業に関する活動に参加したいと思いますか?(一つだけ)

	回答数	割合
① ぜひ活動したい	3	25.0%
② 都合がつけば活動したい	8	66.7%
③ あまり活動したくない	0	
④ 活動したくない	0	
⑤ わからない	1	8.3%
無回答	0	
合計	12	



(問 11)上記の問 10 で、あなたがそのように回答した理由はなぜですか?

自然再生事業に関する活動の参加理由は、下記に示すとおりである。「都合がつけば参加したい」の理由として「自分に何が出来きるかまだ分からないので、何か出来ることがあれば、都合がつけばそうしたい」などの前向きな回答があった。自然再生のために出来る具体的な活動内容を提示することで、もっと多くの参加を見込める可能性があると言える。

問11:問10(サロベツ自然再生事業に関する活動に参加したいと思いますか?)の回答理由

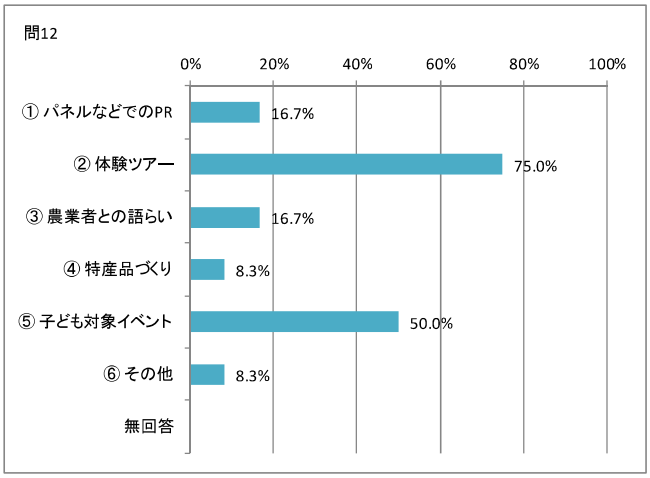
記述内容	問9の回答
社会貢献に興味がある。	ぜひ活動したい
市民が中心になって考えるべき事業だと思うから。	
自然再生に興味があるので	都合がつけば活動したい
自分に何が出来るかまだ分からないので、何か出来ることがあれば、都合がつけばそうしたいので	
仕事柄、転勤があるため	
サロベツの自然再生と産業の共存は重要であり、その考えに賛同できるので	
サロベツの自然を後世にまで残したいから。	
仕事があるので	

(問 12)サロベツ自然再生事業の普及に向けて、どのようなことが必要だと思いますか?

自然再生事業の普及に向けて、どのような事が必要かを複数回答で質問したところ、第 1 回と同様、「体験ツアー75.0%」、「子ども対象イベント 50.0%」が高い割合での回答を得た。一方、第 1 回と比較して、「農業者との語らい」「特産品づくり」はかなり低めの割合であった。

問12:サロベツ自然再生事業の普及に向けて、どのようなことが必要だと思いますが(複数回答可)

	人数	割合
① パネルなどでのPR	2	16.7%
② 体験ツアー	9	75.0%
③ 農業者との語らい	2	16.7%
④ 特産品づくり	1	8.3%
⑤ 子ども対象イベント	6	50.0%
⑥ その他	1	8.3%
無回答	0	
回答者数	12	



8.2 サロベツの湿原と農業の共生をテーマとしたイベントの実施

サロベツ自然再生事業において地域住民等多様な主体の参画や連携を促すため、サロベツ湿原センターを活用し、サロベツの湿原と農業の共生をテーマとしたイベントを 1 回実施した。イベントの実施においては、以下のことを実施した。

(1) 企画立案と実施計画の作成

イベントの実施に際して、事前に開催の趣旨、全体スケジュール、参加者募集方法、開催時期等についての実施計画を作成した。実施計画を次頁以降に示した。

サロベツの自然と農業を満喫する一日

サロベツ・エコモーDay

（サロベツの湿原と農業の共生を
テーマとしたイベント実施計画書）

平成 25 年 9 月

特定非営利活動法人　サロベツ・エコ・ネットワーク

１．開催趣旨

サロベツ原野では、平成 17 年に設立した上サロベツ自然再生協議会により「湿原の自然再生」「農業の振興」「地域づくり」を目標とした自然再生事業が行われている。これら自然再生への取り組みを持続的なものにするためには、地域全体での協力した取り組みや、上サロベツならではの特徴ある地域づくりを進めていくことが必要である。

今回の「サロベツの自然と農業を満喫する一日　サロベツ・エコモーＤａｙ」では、様々な企画を通してサロベツの湿原の保全や農業に関わる方々が交流を深め、上サロベツならではの特徴ある地域づくりに向けて地域全体が協力し合うきっかけになることを目的とする。

２．開催要項

〈イベントのねらい 〉

サロベツ・エコモーＤａｙ開催のねらいは以下の 6 項目である。

①サロベツの湿原と農業の共生に対する住民意識の向上

地元住民が参加することにより、上サロベツ地域で行われている湿原の再生と農業の共生を目指す自然再生事業についての意識向上を図る。

②サロベツの湿原と農業の共生に関する住民参加活動の推進

上サロベツ地域で行われている湿原と農業の共生に関する地元住民の意識が高まり、将来的に、地元住民が主体となった活動が展開されていくことを期待する。

③サロベツの湿原と農業の共生に向けた多様な関係者の参画の推進

農業関係者等の多様な地元関係者の参画が推進されていくことを期待する。

④サロベツの湿原と農業の共生に向けた活動の情報発信

地元住民に対して湿原と農業の共生に関する取り組みの情報発信を行う。また、参加者が自らの体験を周囲に発信することにより、不参加の住民に対しても住民意識の向上が期待される。

⑤サロベツの湿原と農業の共生に向けた持続的活動の推進

湿原と農業の共生に向けた取り組みが地元住民に定着し、持続的な活動へと発展していくことを期待する。

⑥サロベツの湿原と農業の共生に向けた地域づくりに関わる人材の育成

湿原と農業が共生する地域づくりに主体的に関わる人材が育ち、彼らが持続的な活動をリードしていくことを期待する。

〈全体スケジュール〉

サロベツ・エコモーＤａｙを開催するにあたってのスケジュールは以下の通り。

表-8.9 サロベツの湿原と農業の共生をテーマとしたイベント工程

工　種	9月			10月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
企画立案・実施計画	━	━				
参加団体の選考・調整（使用備品手配含む）			━	━		
事前の広報活動			━ 広報準備	━ プレスリリース		
当日の運営					━	
実施結果の取りまとめ						━

〈参加者募集〉

サロベツ・エコモーＤａｙ開催の主旨に則り、自然再生事業に興味のある地域の住民から、広く参加を募ることが重要である。また、上サロベツ自然再生協議会普及部会関係者やサロベツ・エコモー・プロジェクト関係者、農業関係者にも積極的に参加してもらえるように、重点的に周知を行うこととする。

１．広く一般公募（プレスリリース・回覧・掲示等による）

２．上サロベツ自然再生協議会再生普及部会員

３．サロベツ・エコモー・プロジェクト活動実施者（エコモー☆メンバー）

４．サロベツ・エコモー・プロジェクト運営支援組織（エコモー☆サポーター）

５．農業関係者（JA 北宗谷、4H クラブ）

〈開催場所〉

今回のサロベツ・エコモーDay は、環境省の施設であるサロベツ湿原センターを中心に行うものとする。

①サロベツ湿原センター（館内・木道・芝生広場・駐車場）

②隣接のレストハウスサロベツ

〈開催時期、規模〉

サロベツ・エコモーＤａｙ開催の主旨に則り、農業関係者にとって参加しやすい牧草収穫後の時期（農閑期）で、かつ一般からの参加も期待できる週末として、地元行事や湿原センターのイベント開催時期を出来るだけ避けて候補日を選定した(表-8.10 参照)。その結果、サロベツ・エコモーDay の開催日は、10 月 14 日（月・祝）が適当であるとの判断にした。なお、本イベントは、荒天時であってもサロベツ湿原センターやレストハウスでの室内活動が可能であること、また、その他の週末は既に地元行事の予定が入っていることから、荒天による順延予備日は設けないこととした。

表-8.10　サロベツ・エコモーDay 開催日の選定

月	日（曜日）	他のイベント等の有無	判　定	備　考
9	21（土）	なし	▲	開催までの準備期間が短過ぎるため
	22（日）	市民自然講座（地元ＮＰＯ主催）	×	他のイベントと重なる。
	23（月・祝）	高校学校行事	×	他のイベントと重なる。
	28（土）	第１回環境学習予定日	×	他のイベントと重なる。
	29（日）	第１回環境学習予備日	×	他のイベントと重なる。
10	5 日（土）	子供体験活動（教育委員会主査）	×	他のイベントと重なる。
	6 日（日）	外来種駆除活動（地元ＮＰＯ主催）	×	他のイベントと重なる。
	12 日（土）	高校学校行事	×	他のイベントと重なる。
	13 日（日）	高校学校行事	×	他のイベントと重なる。
	14 日（月・祝）	なし	◎	**エコモーDay 予定日**
	19 日（土）	第２回環境学習予定日	×	他のイベントと重なる。
	20 日（日）	第２回環境学習予備日	×	他のイベントと重なる。
	26 日（土）	豊富町民文化（教育委員会主催）	×	他のイベントと重なる。
	27 日（日）	豊富町民文化（教育委員会主催）	×	他のイベントと重なる。

3. サロベツ・エコモーDay の内容

〈企画概要〉

サロベツ・エコモーDay 当日は、以下に示す 7 種類の企画を同時進行で行う。

①サロベツを食べよう　～豊富牛乳を使った料理試食会～

・時間：11:00～　試食が無くなり次第終了

・場所：レストハウスサロベツ

・内容：サロベツ湿原センターに隣接するレストハウスにおいて、昨年実施された豊富牛乳を使用したメニューコンテストの結果を受けて、レストハウス側が本格的な提供に向けて試食を提供し、当日会場を訪れた方にアンケートを実施する。

・定員：試食は 200 名分用意

②秋の木道観察会　～サロベツガイドと秋の湿原を楽しもう～

・時間：10:30～16:00　（4 回実施）

・場所：サロベツ湿原センター木道

・内容：秋の湿原の魅力を楽しんでもらうため、地元のサロベツガイドによる案内で木道を巡る。1 時間毎に全４回実施し、毎回講師が変わるため、ガイドによる自然の伝え方の違いなど、個性も楽しめる。

・定員：各回 20 名

③エコモー交流会　～みんなでサロベツの話を聞こう、しよう～

・時間：13:00～15:00

・場所：サロベツ湿原センター多目的スペース

・内容：毎年夏にサロベツ湿原センターを拠点に自然ガイドなどを行っている地元の豊富高校生と北海道大学の大学生によるサブレンジャーの活動発表。日々の活動の様子や、それぞれの視点で見たサロベツの自然の魅力、またサブレンジャー活動を通じて得た知識や経験、今後の展望などについて発表を行う。最後にまとめとして中島自然保護官による自然再生事業の紹介などが行われる。

・定員：30 名

④浚渫船に乗ってみよう

・時間：10:00～16:00

・場所：サロベツ湿原センター木道わき浚渫船

・内容：サロベツ湿原センターの屋外に展示されていて、普段は乗ることができない泥炭浚渫船を当日限定で開放し、サロベツの泥炭採掘の歴史の一端に触れてもらう。

⑤トラクターに乗ってみよう・牧草ロール展示

・時間：10:00～16:00

・場所：サロベツ湿原センター駐車場

・内容：サロベツ湿原センターの駐車場に、農家の方の協力を得て牧草の刈り取りなどで使用するトラクターを展示し、運転席に乗ることもできるようにする。また施設前の芝生広場に牧草ロールとラップサイレージを展示し、地域の酪農に対する関心を高めてもらう。ラップサイレージについては子供が絵を描けるようになっており、親子で来場しても楽しめる。

⑥ポニーの幌馬車に乗ってみよう

・時間：10:00～16:00

・場所：サロベツ湿原センター駐車場、芝生広場

・内容：サロベツ湿原センターを周回するコースで、サロベツ・エコモー・プロジェクトに登録されている活動の１つ、「ポニーの幌馬車」を実際に運行する。サロベツの開拓期において馬が活躍した歴史を知りながらら、親子でも楽しめる。

⑦自然再生パネル展・クイズラリー

・時間：10:00～16:00

・場所：サロベツ湿原センター展示室

・内容：エコモー☆サポーターによる、サロベツ・エコモー・プロジェクトのＰＲや、サロベツで行われている自然再生の取り組みを紹介する展示コーナーを設置する。また、会場内の各イベントを回りクイズに答えると豊富牛乳がもらえるクイズラリーを実施する。

・定員：牛乳は 100 名分用意

(2)　参加団体の選考、参加団体の調整（使用備品類の手配を含む）

〈参加団体の選考〉

サロベツ・エコモーＤａｙの開催主旨を踏まえ、湿原の保全や農業に関わる方々が交流を深め、上サロベツならではの特徴ある地域づくりに向けて地域全体が協力し合うきっかけとするため、以下の観点で地域における関係団体・個人を選定した。

１．イベント運営を円滑に行うため、地域の行政機関

２．地域において自然（湿原）に関連する活動を行っている団体・個人

３．地域において酪農に関連する活動を行っている団体・個人

４．イベントを次世代に引き継ぐため、地域の教育機関

５．地域の特産品作りに携わる団体・個人

また、協力の同意を得られた 9 団体・7 個人には具体的にサロベツ・エコモーＤａｙに向けた協力内容を依頼した。その結果を次頁の表に示す。

なお、今年度については、協力要請を開催日の 1 ヶ月ほど前に実施した。しかし、前年度に引き続き、開催日までの時間的余裕が無いため協力は難しいとして断られた場合が多く、今回もまた早期に要請を受けていれば協力できた可能性が高いとする指摘を受けた。

次年度以降においては、団体に対する要請は当該年度初期に実施することが望ましく、遅くとも 2～3 カ月前には調整を図ることが必要であると考える。

表-8.11　参加団体の選定結果

機関・団体・個人名	選定理由	協力の可否	協力要請内容
豊富町役場	地元自治体	○	・町内回覧、公共施設への掲示による開催周知
JA北宗谷	地元酪農団体	○	・農家への周知、トラクターの展示
JA北宗谷青年部	地元酪農団体	○	・牧草ロール
豊富牛乳公社	地元酪農団体	○	・豊富牛乳の提供 （当日、来場者に配布）
4Hクラブ	地元酪農団体	―	
JA北宗谷女性部	地元酪農団体	―	
農村生活文化伝承活動を進める会	地元酪農団体	―	
豊富高校	地元教育機関	○	・レストハウス内での企画運営協力 サブレンジャー活動報告協力
エコモー☆サポーター	自然再生普及活動推進団体	○	・サロベツ湿原センター内での展示運営
村元正己氏 （天北塾・サロベツ学会・パークボランティアの会）	地元自然系団体	○	・木道観察会での講師
疋田英子氏・村山良子氏・岩澤光子氏・田中美恵子氏・稲垣順子氏（おばパワー倶楽部、ネイチャーラブ最北・日本野鳥の会・パークボランティアの会）	地元自然系団体	○	・木道観察会での講師
遠島幸吉氏 （パークボランティアの会・稚内大沼バードハウス管理人）	地元自然系団体	○	・木道観察会での講師

〈イベントの内容調整〉

サロベツ・エコモーDay の内容について調整を行い、以下に示すように各企画のタイムテーブル、準備物品、役割分担等を決定した。

①サロベツを食べよう

表-8.12「サロベツを食べよう」タイムテーブル

日付	開始時刻	時間	項　目	担当者	備　考
10月13日（前日）	15:00	60分	会場設営・レストハウス職員へ翌日の流れを説明	稚内自然保護官事務所、受注者	湿原センターから必要な物品を搬入
10月14日（当日）	10:30	30分	会場設営の確認・受付準備、レストハウス職員へ当日の流れを説明	受注者	
	10:45	15分	メニュー配置	受注者	
	11:00～		メニュー提供開始（随時呼び込み・受付）	受注者	
			150食限定で終了	受注者	
			終了後、アンケート結果集計	受注者	結果は後日にレストハウス職員に説明

表-8.13　「サロベツを食べよう」準備物品リスト

準　備　品	数　　量	担当者	備　　考
調理器具		レストハウスサロベツ	
お皿、箸、コップ	150食分を準備	レストハウスサロベツ	
試食券	150枚	受注者	
金庫	1	受注者	
アンケート用紙	150枚	受注者	
アンケート回収箱	1	受注者	
ゴミ箱、ゴミ袋	1	受注者	
筆記用具（投票用）	適宜	受注者	
ポスター・案内表示	レストハウス入口　1枚 受付　1枚	受注者	
長机	2	受注者	湿原センターから移動
小型机	2	受注者	湿原センターから移動
椅子	2	受注者	湿原センターから移動

②秋の木道観察会

表-8.14　「秋の木道観察会」タイムテーブル

開始時刻	時間	項　目	担当者	備　考
10：00	30 分	受付準備 打ち合わせ	受注者	
10：30～	60 分	木道観察会 1 回目 遠島幸吉氏による案内	受注者	
11：30～	60 分	木道観察会 2 回目 村元正己氏による案内	受注者	
12：30～	60 分	木道観察会 3 回目 おばパワー倶楽部による案内（疋田英子氏、村山良子氏、岩澤光子氏、田中美恵子氏、稲垣順子氏）	受注者	
15：00～	60 分	木道観察会 4 回目 山元嘉基（当法人自然ガイド）による案内	受注者	
16：00		終了、片付け	受注者	

表-8.15　「秋の木道観察会」準備物品リスト

準　備　品	数　　量	担当者	備　　考
受付名簿	4 枚	受注者	
デジタルカメラ	1 台	受注者	
ルーペ	10 個	受注者	
バインダー	20 枚	受注者	

③エコモー交流会

表-8.16　「エコモー交流会」タイムテーブル

開始時刻	時間	項　目	担当者	備　考
12：30	30 分	会場設営 受付準備 最終打ち合わせ	稚内自然保護官事務所 受注者	湿原センター内
13：00	5 分	開会・開会あいさつ	稚内自然保護官事務所 受注者	
13：05	40 分	豊富高校生によるサブレンジャー活動報告	受注者	
13：45	40 分	北海道大学生によるサブレンジャー活動報告	受注者	
14：25	30 分	環境省	稚内自然保護官事務所 受注者	
14：55	5 分	閉会あいさつ・閉会	稚内自然保護官事務所 受注者	
15：00	-	終了、片付け		

表-8.17　「エコモー交流会」準備物品リスト

準　備　品	数　　量	担当者	備　　考
プロジェクター	1 個	受注者	
延長コード	1 個	受注者	
マイク	1 本	受注者	
ノートパソコン	1 台	受注者	
レーザーポインター	1 台	受注者	

④浚渫船に乗ってみよう〉

表-8.18「浚渫船に乗ってみよう」タイムテーブル

開始時刻	時間	項　　目	担当者	備　考
9:30	30 分	安全管理、日程・注意事項確認、マット準備など 当日スタッフ配置（3 人） ①受付と最初のレクチャー(1 人) ②船体甲板と脚立補助(2 人)	受注者	
10:00 ～ 12:00	30 分	受付開始 ※「浚渫船に乗ってみよう」という案内板を持ち、呼び込みを行う ※参加者が集まった時点で、浚渫船まで移動し、レクチャー後、実際に乗船していただく	受注者	
12:00	30 分	お昼休憩		
12:30 ～ 14:00	90 分	受付開始 集まり次第　移動開始	受注者	
14:00		終了、片付け	受注者	

表-8.19　「浚渫船に乗ってみよう」準備物品リスト

準　備　品	数　　量	担当者	備　　考
浚渫船案内資料	1 式	受注者	写真等
浚渫船案内板	1 個	受注者	
受付用紙	2 枚程度	受注者	
滑り止めマット	1 枚	受注者	
トラロープ	1 個	受注者	
脚立	1 脚	受注者	
渡し板	2 枚	受注者	資材は環境省より借用

⑤トラクターに乗ってみよう・牧草ロール展示

表-8.20　「トラクターに乗ってみよう・牧草ロール展示」タイムテーブル

日付	開始時刻	時間	項　目	担当者	備　考
10/13 （前日）	14:00	60分	牧草ロール搬入（小松農場） ※牧草ロール（乾草ロールとラップサイレージ各２個）	稚内自然保護官事務所、受注者	
	15:00		準備完了	稚内自然保護官事務所、受注者	
10/14 （当日）	9:00	30分	トラクター（ハーベスタ）搬入（ＪＡ北宗谷）	稚内自然保護官事務所、受注者	
	9:30	30分	日程・注意事項等確認	稚内自然保護官事務所、受注者	
	10:00～ 16:00	270分	展示開始（子どもが運転席に乗れるように管理） ※随時呼び込み、機械の説明 ※運転席への乗り下りの管理（怪我や機器の破損が生じないよう常に管理） ※利用者の少ない時間に随時休憩（休憩時には勝手な乗り込み等がないよう管理） ※観光バスが来たときは随時誘導	稚内自然保護官事務所、受注者	当日は役場農政課も協力
	16:00以降	60分	牧草ロール搬出（小松農場） トラクター（ハーベスタ）搬出（ＪＡ北宗谷）	稚内自然保護官事務所、受注者	

表-8.21　「トラクターに乗ってみよう牧草ロール展示」準備物品リスト

準　備　品	数　　量	担当者	備　　考
農業機械資料	50 部程度	稚内自然保護官事務所 受注者	
牧草ロール資料	２セット	稚内自然保護官事務所 受注者	芝生上に表示
案内板	２個	稚内自然保護官事務所 受注者	
カウンター	１個	受注者	

⑥ポニーの幌馬車に乗ってみよう

表-8.22　「ポニーの幌馬車に乗ってみよう」タイムテーブル

開始時刻	時間	項　目	担当者	備　考
9:00	30分	ポニー・幌馬車をトラックで搬入、幌馬車組み立て	稚内自然保護官事務所、受注者	
9:30	30分	コンクリートパネルで芝生養生、試験運行、案内表示設置	稚内自然保護官事務所、受注者	
10:00～16:00	300分	幌馬車運行開始 ※客足の落ち着いたところで休憩を取る	稚内自然保護官事務所、受注者	
16:00以降	30分	片付け、幌馬車を解体、ポニー・幌馬車をトラックで搬出	稚内自然保護官事務所、受注者	

表-8.23　「ポニーの幌馬車に乗ってみよう」準備物品リスト

準　備　品	数　　量	担当者	備　　考
コンクリーとパネル	4 枚	受注者	芝生養生用
幌馬車資料	2 セット	稚内自然保護官事務所	
案内板	1 個	受注者	
カウンター	1 個	受注者	

〈自然再生パネル展・クイズラリー〉

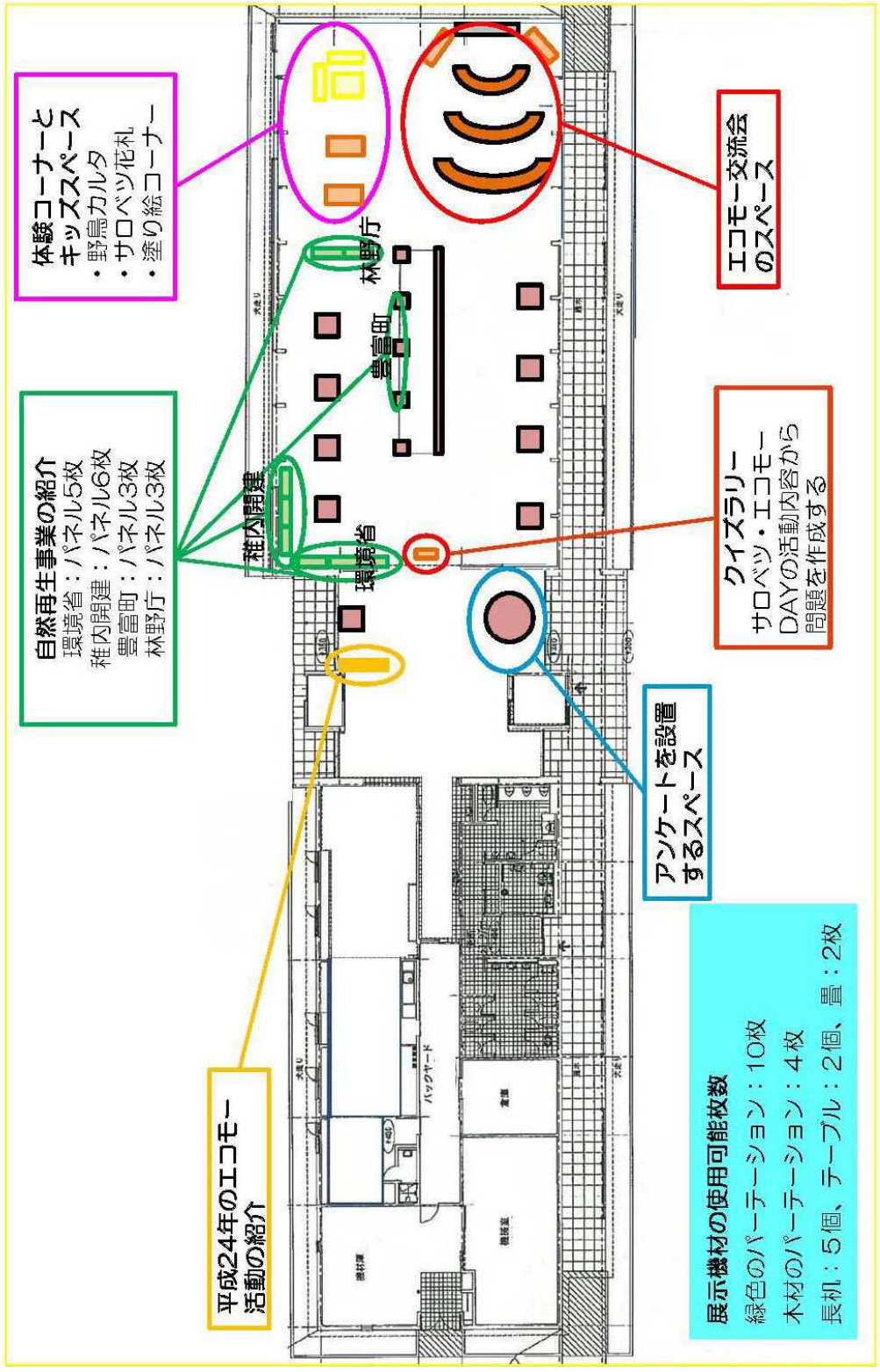
表-8.24　「自然再生パネル展・クイズラリー」タイムテーブル

日付	開始時刻	時間	項　目	担当者	備　考
10/13（前日）	13:00	30分	集合、全体の作業内容確認	稚内自然保護官事務所 エコモー☆サポーター 受注者	
	13:30	30分	会場設営、レイアウト変更	稚内自然保護官事務所 エコモー☆サポーター 受注者	各自持ち込んだ展示物を、常設展示会場の間取り図に沿って設置する。
	14:00		準備完了	稚内自然保護官事務所 エコモー☆サポーター 受注者	早く終わった場合は浚渫船の準備を行う。
10/24（当日）	9:30	30分	最終打ち合わせ、役割分担確認、解説内容共有	稚内自然保護官事務所 エコモー☆サポーター 受注者	
	10:00～16:00	300分	展示解説開始、クイズラリー開始	稚内自然保護官事務所、 エコモー☆サポーター 受注者	各ブースで適宜解説を行う。※クイズラリー参加を促し、併せてアンケートを記入して頂く。
	16:00以降		展示会場の片付け、終了	稚内自然保護官事務所 エコモー☆サポーター 受注者	

表-8.25　「自然再生パネル展・クイズラリー」準備物品リスト

準　備　品	数　　量	担当者	備　　考
クイズラリー・ アンケート用紙	100枚	受注者	
アンケート回収箱	1個	受注者	
牛乳	100個	–	豊富牛乳公社より
バインダー	15枚	受注者	
スタッフネーム	30個	受注者	エコモー☆サポーター人数分
パーテーション	10枚	受注者	
長机	5脚	受注者	
カウンター	1個	受注者	
色鉛筆など	3セット	受注者	ぬりえコーナー用
鉛筆	20本	受注者	クイズラリー、アンケート用
画鋲	1式	受注者	
ガムテープ	1個	受注者	

「自然再生パネル展・クイズラリー等」会場レイアウト



(3) 事前の広報活動（チラシ 1,000 部、ポスター30 部の作成を含む）

広報については下表に示すように、宗谷管内在住者、稚内市・豊富町在住者、広域を対象にそれぞれの広報方法で実施した。また、事前広報のために、新聞折り込み用のチラシのデザインと印刷(1,000 部)、及びポスター（30 部）の印刷を行った。

掲示場所は表-8.26 に示すとおりである。また、イベントの開催要項が広報先に浸透するよう２週間前を目処に広報を実施した。プレスリリース資料および掲示チラシ等を次頁以降に示す。

表-8.26 広報の範囲と方法一覧表

対　象　者	広　報　方　法
宗谷管内在住者	マスコミ各社へのプレスリリース （北海道新聞社・日刊宗谷・NHKなど）
稚内市 豊富町在住者	稚内市・豊富町内主要施設へのポスター掲示
豊富町在住者	町内回覧・町内教育機関への配布
広　域	関係者に対するメール発信 ホームページへの掲載
上サロベツ自然再生協議会 再生普及部会員	イベントチラシ郵送
サロベツ・エコモー・プロジェクト 活動実施者、エコモー☆メンバー	イベントチラシ郵送
農業関係者 （JA北宗谷）	イベントチラシFAX

表-8.27 チラシ配布方法

配布方法	配布部数
豊富町回覧板・豊富町役場で配布	350部
豊富町内教育機関	360部
サロベツ湿原センターにて配布	100部
稚内自然保護官事務所にて配布	140部
レストハウスサロベツにて配布	50部
計	1,000部

表-8.28　ポスター掲示先一覧表

No.	施設名	チラシサイズ	枚数	掲示日	掲示を許可した者
1	サロベツ湿原センター	A2	2	9/28	自然保護官
2	豊富町共同福祉施設	A2	1	9/28	NPO事務局長
3	セイコーマート とよとみ店	A2	1	9/28	店主
4	セイコーマート エベコロ店	A2	1	9/28	店主
5	豊富フードセンター	A2	1	9/28	店員
6	サロベツマイハート 夢工房	A2	1	9/28	店主
7	沿岸バス豊富営業所	A2	1	9/28	受付窓口職員
8	ミート&フーズうえの	A2	1	9/28	店主
9	豊富町社会福祉協議会	A2	1	9/28	協議会職員
10	豊富町町民センター	A2	1	9/28	町教委職員
11	豊富町スポーツセンター	A2	1	9/28	受付窓口職員
12	JR豊富駅	A2	1	9/28	観光協会職員
13	豊富町観光情報センター	A2	1	9/28	観光協会職員
14	豊富温泉ふれあいセンター	A2	1	9/28	受付職員
15	豊富温泉コンシェルジュデスク	A2	1	9/28	温泉コンシェルジュ
16	ホテルニュー温泉閣	A2	1	9/28	店主
17	豊富高校	A2	1	9/28	事務員
18	豊富中学校	A2	1	9/28	事務員
19	豊富小学校	A2	1	9/28	事務員
20	餅 カフェ わが家	A2	1	9/28	店主
21	豊富町役場	A2	1	9/28	職員
22	レストハウスサロベツ	A2	2	9/28	職員
23	JR稚内駅	A2	1	9/28	職員
24	稚内市観光協会	A2	1	9/28	協会職員
25	KITAKARA管理事務所	A2	1	9/28	職員
26	稚内副港市場	A2	2	9/28	職員
27	豊富町定住支援センター ふらっときた	A2	1	9/28	職員



沿岸バス豊富営業所の掲示



豊富フードセンターの掲示



豊富町民センターの掲示



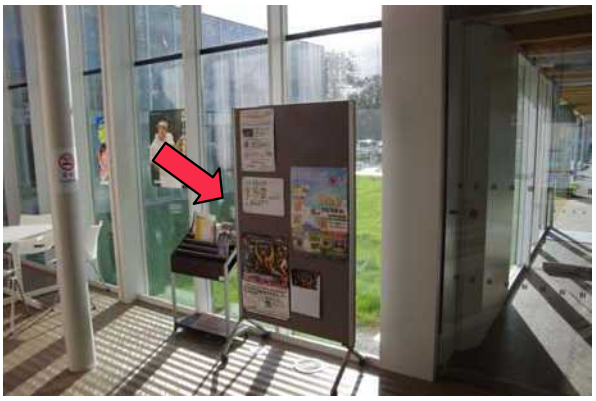
豊富観光情報センターの掲示



JR 豊富駅の掲示



サロベツマイハート夢工房の掲示



定住支援センター



豊富町役場

プレスリリース資料
（湿原と農業の共生をテーマとしてイベント）

平成 25 年 9 月 27 日
環境省稚内自然保護官事務所

関係各位

お知らせ

＜件名＞　　『サロベツ・エコモーＤａｙ』の開催について

＜お知らせ内容＞

環境省稚内自然保護官事務所では、サロベツ湿原で行われている「湿原と農業の共生」を目指した自然再生の取り組みをより身近に感じていただくことを目的としたイベント、「サロベツ・エコモーＤａｙ（ディ）」を昨年度に引き続き開催致します。周知にご協力のほど、よろしくお願い致します。

当日はサロベツ湿原センターを拠点に様々な催しが予定されておりますので、詳細はチラシをご覧いただき、ご不明な点はお問い合わせ下さい。

＜サロベツ・エコモーＤａｙとは＞

サロベツ湿原は日本で最も広い高層湿原を有し、ラムサール条約にも登録されています。しかし、かつての開拓事業によって湿原が減少し、近年も湿原にササが広がるなど様々な問題が起きています。そのような問題から湿原を保全するため、サロベツでは、「湿原と農業の共生」を目指した自然再生の取り組みが行われています。

サロベツ・エコモーＤａｙでは、「湿原と農業の共生」をテーマに、サロベツ湿原の自然や、その広大な自然の中で育まれた農業を身近に感じていただくことを目的としています。

※「エコモー」とは、エコロジーの「エコ」と、牛の鳴き声の「モー」からなる造語です。

＜行事の内容等について＞

●開　催　日：平成 25 年 10 月 14 日（祝）10:00～16:00
●場　　所：サロベツ湿原センター・レストハウスサロベツ
●対　　象：どなたでも自由にご参加いただけます。

当日は、以下の催しが会場各所で並行して行われます。

1．サロベツを食べよう

（湿原センターに隣接するレストハウスサロベツにて、この日限定で豊富牛乳や豊富町産の食材を使った料理が提供されます。（無くなり次第終了））

2．秋の木道観察会

（サロベツを代表するベテランガイドが、交代で秋の湿原を 1 時間程度ご案内します。10：30、11：30、12：30、15：00 の全 4 回出発します。花はほとんどありませんが、その代わり、サロベツの昔の話なども聞きながら、草紅葉と呼ばれる湿原植物の紅葉や、渡り鳥の観察をお楽しみいただけます。）

3．浚渫船に乗ってみよう

（普段は展示してあるだけで乗ることができない浚渫船を、当日限定で開放します。泥炭採掘の歴史を今に伝える産業遺産にお乗りいただける貴重な機会です。）

4．トラクターに乗ってみよう

（センター駐車場にトラクターや農機具、牧草ロール、ラップサイレージなどを展示します。牧草ロールやラップサイレージに乗ったり、好きな絵を描いたり、またトラクターの運転席に乗ることもできます。）

5．ポニーの幌馬車

（湿原センターの建物に沿って周回するポニーの幌馬車も運行します。かつてはサロベツでも利用されていた幌馬車に乗ってさわやかな秋の風を感じられます。）

6．エコモー交流会

（夏休み期間中に湿原センターを拠点にガイド等で活躍してくれた大学生・高校生サブレンジャーによる活動発表が行われます。また、会場内の方も含め、皆でサロベツの魅力や、これからについて話をします）

7．自然再生パネル展

（サロベツ地域で行われている自然再生の取り組みを紹介するパネル展示を行います。また、子ども向けの折り紙やぬり絵などの体験コーナーも開設されます。）

8．クイズラリー

（会場内の各コーナーを全部回ると豊富牛乳がもらえるクイズラリーを開催します。）

＜サロベツ・エコモー・ツアー予告＞

10月19日（土）　自然再生事業が行われている「泥炭採掘跡地」の見学ツアーを開催致します。

＜お　問　合　せ　先＞

サロベツ湿原センター　TEL：0162-82-3232　FAX：0162-82-1009
E-mail：center@sarobetsu.or.jp

＜主　　催＞

環境省稚内自然保護官事務所　TEL：0162-33-1100　FAX：0162-33-1101
E-mail：RO-WAKKANAI@env.go.jp

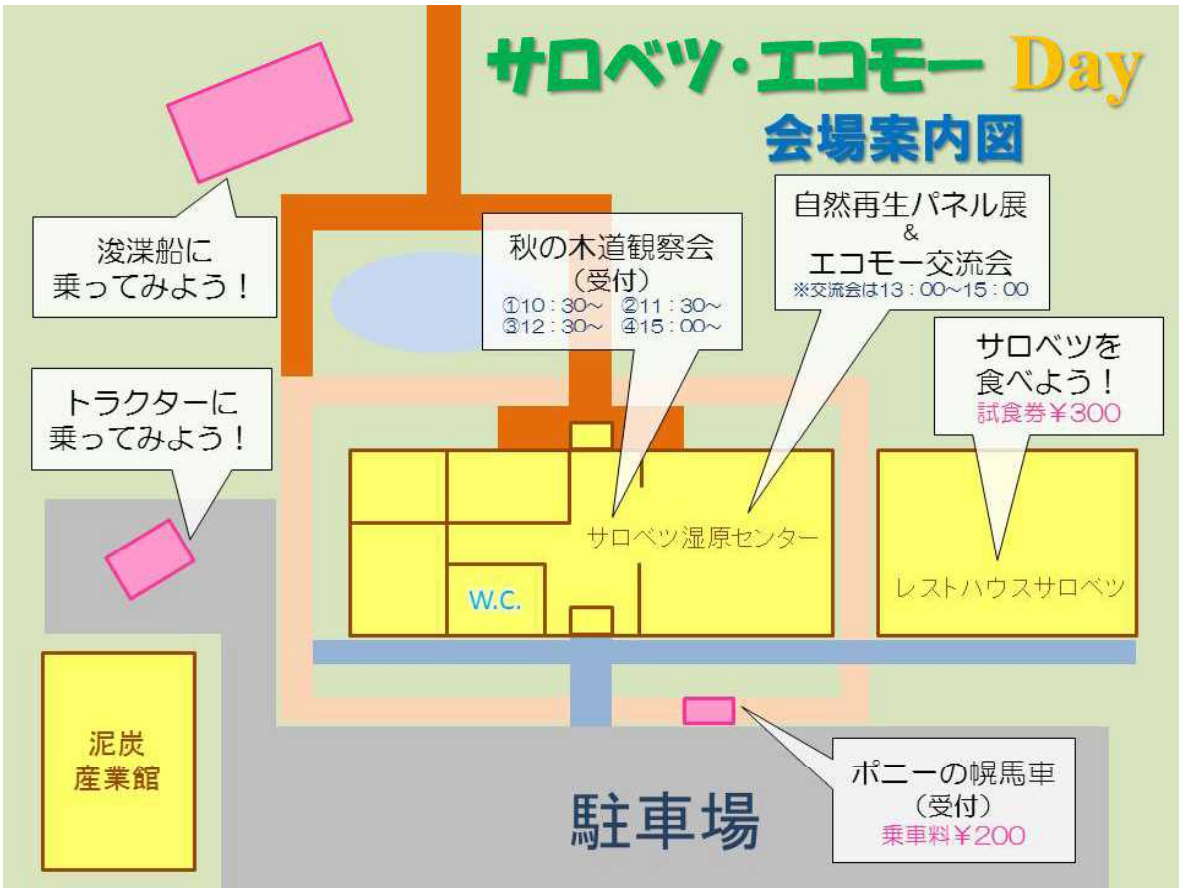
＜協　　力＞

上サロベツ自然再生協議会 再生普及部会・エコモー☆サポーター、豊富観光開発協同組合、豊富高等学校

チラシ表面


<サロベツ・エコモーDayとは>
サロベツ湿原は日本で最も広い高層湿原を有し、ラムサール条約にも登録されています。その湿原を保全するためにサロベツでは、湿原と農業の共生を目指す自然再生事業が行われています。
サロベツ・エコモーDayは、湿原と農業の共生をより身近に感じていただくためのイベントです。※「エコモー」とは、エコロジーの「エコ」と牛の鳴き声の「モー」からなる造語です。
まってるよ
サロベツの自然と農業を満喫する1日
サロベツ・エコモー
Day
10/14(祝)
10:00-16:00
ジャイアンが案内するよ
浚渫船に乗ってみよう!
この日限定の特別開放
サロベツを食べよう
豊富牛乳を使った料理がレストハウスに登場♪
ポニーの馬車も来るよ
秋の木道観察会
サロベツガイドと秋の湿原を楽しもう!1時間毎に出発!
~ご案内時間~
1回目 10:30~
2回目 11:30~
3回目 12:30~
4回目 15:00~
開催会場・アクセス
サロベツ湿原センター
レストハウスサロベツ
サロベツ湿原センター
どなたでもご参加いただけます。ご家族、ご友人とお越し下さい!
各コーナーを回るクイズラリーで豊富牛乳をGET!
milk
キッズコーナーもあるよ
トラクターに乗れるよ!
自然再生パネル展
サロベツの自然再生について知ろう!
エコモー交流会
~開催時間~
13:00~15:00
サブレンジャーの活動発表など、みんなでサロベツの話を聞こう!しよう!
主催:環境省釧内自然保護官事務所 協力:上サロベツ自然再生協議会 再生普及部会、エコモー☆サポーター、豊富観光開発協同組合、豊富高等学校
お問合せ先:サロベツ湿原センター TEL:0162-82-3232 mail:center@sarobetsu.or.jp

会場案内図


サロベツ・エコモー Day
会場案内図
浚渫船に
乗ってみよう！
秋の木道観察会
（受付）
①10：30～ ②11：30～
③12：30～ ④15：00～
自然再生パネル展
&
エコモー交流会
※交流会は13：00～15：00
サロベツを
食べよう！
試食券￥300
トラクターに
乗ってみよう！
サロベツ湿原センター
W.C.
レストハウスサロベツ
泥炭
産業館
駐車場
ポニーの幌馬車
（受付）
乗車料￥200

(5) 当日の運営

イベント当日は、前出の実施計画書に示したタイムテーブルの時間配分および担当に従って展示、イベント等を実施した。各イベント等の様子を画像で下記に示した。

①サロベツを食べよう

昨年度のエコモーDay にて募集したサロベツの特産品である牛乳を食材にしたオリジナルメニューを、今年度はレストハウスの方による調理・提供してもらい、自然再生の取り組みを通してサロベツならではの特徴ある地域づくりを推進することを目的として実施した。当日は下記の作業を行った。

・会場準備(試食スペースのレイアウト変更など)

・試食券の販売

・アンケート用紙の回収及び集計

表-8.29 「サロベツを食べよう」試食メニューにおける人気順位

料　理　名	票数	順位
豊富牛乳カニクリームコロッケ	67	1
豊富牛乳プリン　～ハマナスジャム添え～	65	2
鮭ちゃんちゃん焼風コロッケ	55	3
豊富牛乳わらびもち	53	4
いももち　～みたらし風～	40	5
豊富牛乳おしるこ	33	6
豊富牛乳フレンチトースト	-	-

※気に入った料理は複数選択可とした

※フレンチトーストはアンケート用紙への記載漏れのため票数なし

表-8.30　「サロベツを食べよう」アンケート結果（自由記述）

No.	全体の意見・感想
1	カニクリームがサクサクでおいしかった、しるこに入ってたものは何だったのでしょう
2	どれもすっごくおいしかったです、みなさんお疲れ様でした
3	ちょっと冷めていたので、温かければもっとおいしかったと思い少し残念、でもどれも美味しかったです
4	ぜひこれを新メニューにしていただきたいと思います
5	サケのちゃんちゃん焼風コロッケ美味しかったです、骨が一本入っていたので子供とか危ないのでその辺を気を付けてもらったらいいな
6	サケの・・・・はメニューに是非入れてほしいです、フレンチトーストも美味しかったです
7	いろいろ試食できて楽しかったです、ただ上記6種以外にも何かあったような・・・・・。
8	全体的においしかったです
9	牛乳以外にもホッキや加工肉（サロベツファーム）とコラボしてもおもしろいかも、どれも美味しかったです、頑張ってください
10	定番メニューもいろいろ工夫すると普段から町民ももっと来るようになると思います
11	地元(高校？)とのコラボ企画はとても好印象です、Facebook,youtubeの季節ごとの動画up etc・・・、やれる事はいろいろあると思います、頑張ってください
12	一つでも多くの商品化を希望します
13	地域貢献お疲れ様です、美味しかったです、割引券もありがとうございました
14	普段家では作らないけど本当は大好きなクリームコロッケ　ランチ等でっこんなコロッケを出してくれるお店があったら行ってみたいです
15	サケのチャンチャン焼きは骨があったので、小さな子供も食べるとすると、骨を処理した方が良いのでは、ないでしょうか
16	このセットの感じでできるのがとっても楽しく、少しづつ味わえるのが、素敵だなあと思いました、もしこんなセットがあればうれしいです
17	どれもおいしかったです、満足して帰ります、ありがとう
18	はじめて食べるものばかりで美味でした
19	このようなイベントにたまたま出会えてラッキーでした、全部美味しかったです！
20	低カロリー食としてだったら、牛乳を取り入れたいです、豊富の牛乳はおいしいと思います
21	昨年もごちそうになりました、システムを変えてスムーズにやっておられて良かったっです、新メニューは思い浮かびませんが次年度も期待しています、おつかれさまでした
22	格安な料金で一通りメニューを試食することができて良かった
23	フレンチトーストの評価も忘れないで上げてください、大変おいしかったです
24	小さな子供も食べれて大変良かったです
25	呼びかけ、声掛けを大声でやると良い
26	牛乳を使用したいろいろな工夫がきっと町の為の活力を生むと思いました
27	どれも味よく、量もこのままで色々食べることができて、最高でしたごちそう様でした
28	徳島県の美馬商業高校の取組みが参考になるかもしれません、よかったら調べて見てください、どれも美味しかったです
29	道北の味が出ていて本州の方に喜ばれると思いますよ
30	美味しく頂きました、昼食メニューとしての開発もお願いします、また食べに来ます



建物入口の案内表示



試食の受付



豊富高校生がスタッフとして協力



満席のレストハウス



レストハウス内は常に賑わっていた



いももち



カニクリームコロッケ



鮭ちゃんちゃん焼コロッケと牛乳プリン



牛乳おしるこ



フレンチトースト



牛乳わらびもち



全試食メニュー

サロベツを食べよう！

地元産の美味しい豊富牛乳を使った
本日限定のメニューを試食できます♪

★ サケのちゃんちゃん焼風コロッケ　など計7品
★ 豊富牛乳カニクリームコロッケ
★ 牛乳わらび餅　★ いももち ～みたらし風～
★ 牛乳おしるこ　★ 牛乳プリン～ハマナスジャム添え～
★ フレンチトースト





レストハウス内の受付で

300円の「試食券」をご購入下さい。

サロベツを食べよう！



受　付



7種類をお1つずつ試食できます。

試食券 300円

サロベツを食べよう！



試食券 No.

300円 領収致しました。

2013/10/14 豊富観光開発協同組合

★サロベツ・エコモーＤａｙ 当日限り有効★

アンケートにご協力下さい

新たにレストハウスのメニューに取り入れてほしい料理や気に入った料理がありましたら〇印（いくつでも）を付けて下さい。また各料理のご感想や、商品名のアイディア等がありましたら、お書き下さい。

□ サケのちゃんちゃん焼風コロッケ
（　　）

□ 豊富牛乳カニクリームコロッケ
（　　）

□ いももち ～みたらし風～
（　　）

□ 牛乳プリン ～ハマナスジャム添え～
（　　）

□ 牛乳おしるこ
（　　）

□ 牛乳わらび餅
（　　）

その他、ご意見・ご感想などがありましたらご自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。

〈秋の木道観察会〉



遠島氏による一回目の観察会



木道に出る前に基本的な内容を説明



木道から見られる植物の解説



利尻山を眺めながら散策



おばパワー倶楽部による観察会



ルーペを使用して小さな植物を観察



秋の湿原の魅力を伝えながらの観察



村元氏による観察会は最初に室内で解説



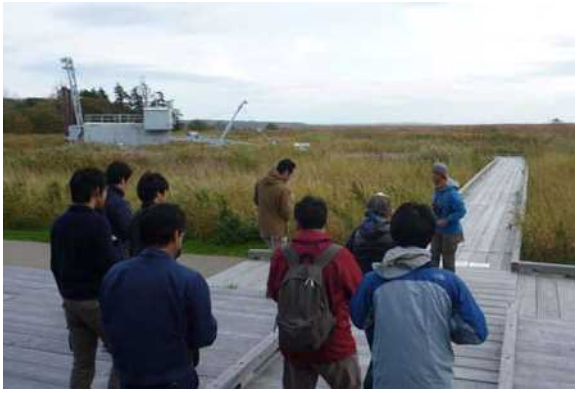
泥炭の成り立ちを中心に解説



泥炭採掘の歴史について解説



湿原の不思議や魅力を伝える解説



山元氏による最終回の案内


サロベツ・エコモー Day
秋の木道観察会
開始時刻
案内人
10:30 START
遠島 幸吉 さん
（稚内市大沼バードハウス管理人、
礼文利尻サロベツ国立公園パークボランティア）
11:30 START
村元 正己 さん
（サロベツ仙人、天北塾、サロベツ学会）
12:30 START
オバパワー倶楽部
疋田 英子 さん、村山 良子 さん
岩澤 光子さん、田中 美恵子 さん
稲垣 順子 さん
（利尻礼文サロベツ国立公園パークボランティア）
15:00 START
嶋崎 暁啓、山元 嘉基
（NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク）
※希望者は 湿原センター受付カウンター前 へ

〈エコモー交流会〉



豊富高校生による発表



4 名が順番にサブレンジャー活動紹介



活動を通じて得た知識や経験を紹介



北海道大学生による発表



大学生 5 名への質問コーナー



中島自然保護官による発表

〈浚渫船に乗ってみよう〉



特別開放した浚渫船



担当者による詳しい解説



参加者は渡し板を利用して乗降する



親子の参加者にも好評



昔の写真を見ながら解説



当時の工場関係者の方から話を伺う



開催時間　10：00～16：00
参加料　　無料
※9歳以下のお子様は保護者同伴

受付は浚渫船の前にいる
「じゃいあん」へ♪



浚渫船（しゅんせつせん）



実際に使われていました！

浚渫船について

工場の操業が開始された昭和45年から平成16年の34年間1隻で泥炭採掘を行いました。浚渫船は8時間操業で縦約30m、横約10m、深さ約3mで泥炭を採掘できます。

泥炭採掘は約30年間で高層湿原域を中心に150ヘクタール余りの範囲に及び、これは採掘開始時の高層湿原面積の約16%に相当しました。

色について

工場立ち上げ当時は黄色でしたが、サロベツ原野が国立公園になった頃、景観に配慮した緑色に塗り替えました。（現在は展示の為、灰色の防錆塗装をしています）

採掘方法

工場全盛期には3交代24時間体制で操業し、船には乗組員2名（うち操縦1名）が乗船していました。

浚渫船は、前方に備えたカッターを左右に振って泥炭を切り出していました。後方には泥炭採掘水を圧送するホースが付いており、鉄管を介して工場まで圧送、水洗分離機によって植物繊維を多く含んだ腐植質をこし取り、工場内の脱水機で更に水分を分離し、泥炭の残りカスと水は採掘跡地に戻されました。

泥炭採掘工場とは‥？

昭和39年に周辺地域の調査が行われ、豊富工場では昭和45年から操業を開始しました。浚渫船により泥炭を採掘し、主に土壌改良のための肥料（ピートモスなど）を生産していました。



社長の苦労話‥

採掘時に、枯れたミズゴケなどがからまってパイプを詰まらせ水が漏れ、工場中が水浸しになったことがあり、何度も工場が止まりました。



〈トラクター乗ってみよう〉



駐車場に用意されたハーベスタ



近くで見ることができる貴重な機会



当日は運転台を開放



親子で試乗する参加者

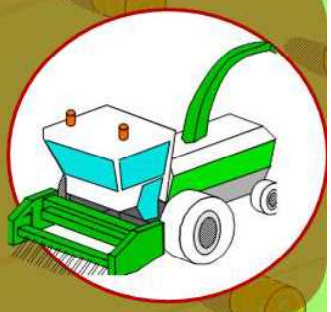


会場内でも遠くから目に付く



近くで見ると巨大なハーベスタ

農業機械に乗ってみよう！



自走式ハーベスタは、牧草の収穫やロールづくり等に大活躍している農業機械です。

普段は乗ることができないハーベスタに、あなたも乗ってみませんか？

農業機械の展示はJA北宗谷にご協力頂きました。

〈牧草ロール・ラップサイレージ展示〉



芝生内に計４個設置



ラップサイレージは絵を自由に描ける



お絵描きは親子連れに好評



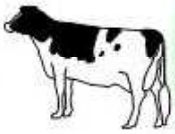
牛や風景など思い思いの絵を描く



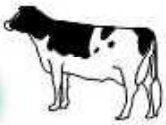
牧草ロールに乗って遊ぶ子供



高校生も記念にメッセージや絵を描く



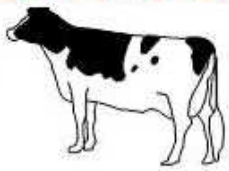
牧草ロール

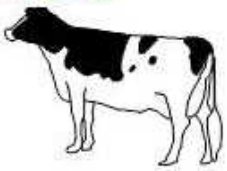


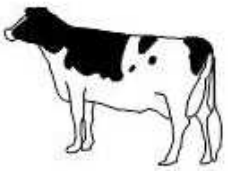
牧草ロールは牧草地で天日乾燥された後、トラクターに牽引された「ロールベーラ」と呼ばれる機械でロール状に加工されたものです。

１つの大きさは直径約１．５m、重さは約３５０ｋｇほどで、１年を通して牛たちの餌になります。

牧草ロールの中には干し草としてそのまま牛たちの餌にするものと、長期保存や牛の食欲増進のため、ビニールを巻いて中の牧草を発酵させるものがあります。







牧草ロールの展示はJA北宗谷青年部にご協力頂きました。

〈ポニーの幌馬車〉



レストハウス前で乗降



センターの歩道を周回する幌馬車



幌馬車内からの前方の眺め



子供たちに人気が高い



一周約 3 分で回ることができる



当日は 77 名が乗車した

ポニーの幌馬車に乗ってみよう！

サロベツでは昭和50年頃まで、馬が主な移動、運搬手段の１つであり酪農にも欠かせない存在でした。

歴史をふりかえりながら、ポニーの幌馬車から見える今のサロベツの風景を楽しみませんか？

乗車料：200円（エサ代として）











〈自然再生パネル展・クイズラリー〉



エコモー☆サポーター同士の打ち合わせ



エントランスの様子



展示室入口



パネルを見る人々



エコモー☆サポーターによる解説



クイズラリーの参加者に牛乳をプレゼント



エコモー・プロジェクト紹介パネル



自然再生事業紹介パネル（環境省）



自然再生事業紹介パネル（開発局）



自然再生事業紹介パネル（林野庁）



クイズラリーの問題と案内表示



キッズコーナーの様子

「自然再生を知ろう」館内クイズラリーの問題用紙及び正答

会場をまわって答えを探してみよう！

【問題①】

サロベツ湿原では「○○と○○の共生」を目指して、地域に関わる様々な人達や団体、関係機関がお互いに協力しながら自然再生の取り組みを進めています。この「○○と○○の共生」に入る文字は何でしょうか？



エコもー太くん

答え（　　と　　の共生）



問題②のコケ

【問題②】

左の写真は、サロベツ湿原など高層湿原を代表する○○○○というコケです。○○○○に入る文字は何でしょうか？

※ コケの名前がわからなかったら、「秋の木道観察会」に参加してみてね！

答え（　　）

【問題③】

「サロベツを食べよう」では、レストハウスで豊富町で生産された○○を活かした料理を食べることができます。○○に入る文字は何でしょうか？



昨年に出品された料理

答え（　　）



浚渫船

【問題④】

浚渫船は、サロベツ湿原の○○を掘り出すために使われた船です。○○に入る文字は何でしょうか？

※○○とは、枯れた湿原の植物が、腐らずに積み重なってできた土壌のことです。掘り出された○○は、土壌改良材等に利用されていました。

答え（　　）

【問題⑤】

サロベツ・○○○○・プロジェクトは「秋の木道散策会」や「ポニーの幌馬車」のような、サロベツの自然や文化を楽しむ活動の環を拡げ、湿原と農業が共生する地域づくりを進めるための取り組みです。

○○○○に入る文字は何でしょうか？



様々な活動が登録されています

↓ 裏面はアンケートです ↓

答え（サロベツ・　　・プロジェクト）

会場をまわって答えを探してみよう！

【問題①】

サロベツ湿原では「○○と○○の共生」を目指して、地域に関わる様々な人達や団体、関係機関がお互いに協力しながら自然再生の取り組みを進めています。この「○○と○○の共生」に入る文字は何でしょうか？



エコもー太くん

答え（湿原 と 農業 の共生）



問題②の植物

【問題②】

左の写真の植物は、8月の中旬から10月にかけて花を咲かせています。この植物は何という名前でしょうか？

※ 花の名前がわからなかったら、「秋の木道観察会」に参加してみてね！

答え（ ホロムイリンドウかエゾリンドウ ）

【問題③】

「サロベツを食べよう」では、レストハウスでいくつかの○○牛乳を活かした料理を食べることができます。○○に入る文字は何でしょうか？



昨年に出品された料理

答え（ 豊富牛乳 ）



浚渫船

【問題④】

浚渫船は、サロベツ湿原の○○を掘り出すために使われた船です。○○に入る文字は何でしょうか？

※○○とは、枯れた湿原の植物が、腐らずに積み重なってできた土壌のことです。掘り出された○○は、土壌改良材等に利用されていました。

答え（ 浚渫船 ）

【問題⑤】

サロベツ・○○○○・プロジェクトは「秋の木道散策会」や「ポニーの幌馬車」のような、サロベツの自然や文化を楽しむ活動の 環を拡げ、湿原と農業が共生する地域づくりを進めるための取り組みです。

○○○○に入る文字は何でしょうか？



様々な活動が登録されています

答え（サロベツ・エコモー・プロジェクト）

(6) 実施結果の取りまとめ

サロベツ・エコモーDay の各イベントの参加者数は下記に示す通りであった。

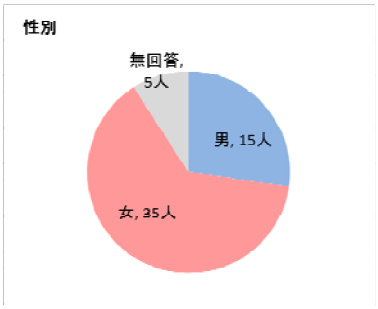
表-8.31　各イベントの参加者数

イベント名称	参加者数
サロベツを食べよう	129
秋の木道観察会 （各4回の参加者に重複あり）	のべ55
自然再生パネル展	128
浚渫船に乗ってみよう	60
農業機械に乗ってみよう	69
ポニーの幌馬車	77
エコモー交流会	31
全体 （参加者に重複あり）	230

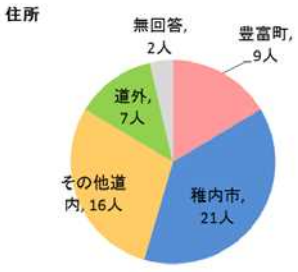
エコモーDay 会場内で実施したクイズラリーの参加者に対して、今後の環境学習の在り方を考える際の参考とする目的でアンケートを実施した。アンケート用紙は資料編 9-3 に示した。

アンケート配布数 58 に対して、55 件の回答を得た。イベント全体の参加者数 230 人に対する割合としては、24%であるので、あくまでアンケート記入者の情報である。

性別では、女性が 35 人で過半数であった。年代としては、40 代が 13 人、30 代が 12 人、60 代が 9 人と多く、全体としては 10 代から 70 代まで幅広い年代層の参加があった。家族連れで来場した際に、母親がアンケートに回答した例が多かった可能性が高いと考えられる。住所としては、稚内市 21 人が多くを占め、地元の豊富町は 9 人であった。その他道内では、札幌市の 5 人が最も多く、その他天塩町及び北見市が各 2 人、幌延町、中頓別町、浜頓別町、枝幸町、深川市、赤平市、江別市が各 1 人であった。道外では静岡県が 3 人、兵庫県が 2 人の他、東京都、大阪府から各 1 人であった。三連休に開催したことが、札幌市などの遠方からの参加があったことの要因であったと考えられる。







<エコモーDay に関するアンケート>

(問 1)あなたは、本日の「エコモーDay」について、何で知りましたか?

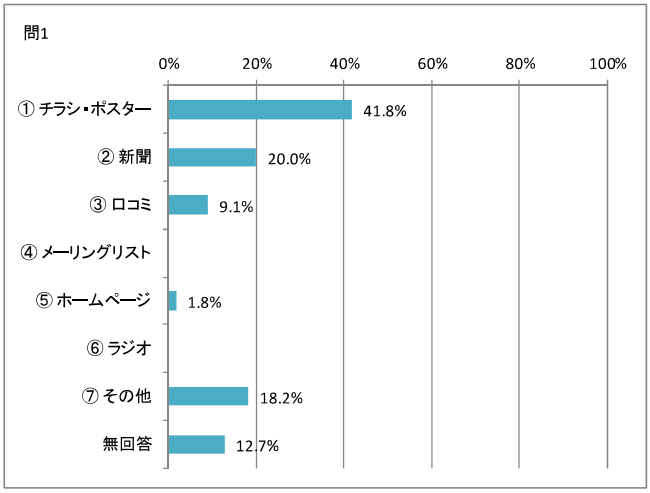
広報効果を確認するための設問である。複数回答で「チラシ・ポスター 41.8%」が最も多く、続いて「新聞 20.0%」となっている。遠方からの参加者が多かったにも関わらず、「ホームページ」は 1 人のみの回答であった。

問1：あなたは、本日の「エコモーDay」について、何で知りましたか？（複数回答可）

	回答数	割合
① チラシ・ポスター	23	41.8%
② 新聞	11	20.0%
③ 口コミ	5	9.1%
④ メーリングリスト	0	
⑤ ホームページ	1	1.8%
⑥ ラジオ	0	
⑦ その他	10	18.2%
無回答	7	12.7%
回答者数	55	

【その他の内容】

「旅行中に立ち寄った」「会場に来てみて」 5人
「先生、学校を通して」 3人
「友人から」 1人
「親から」 1人



(問 2)本日の「エコモーDay」で、興味をひいたものは何ですか?

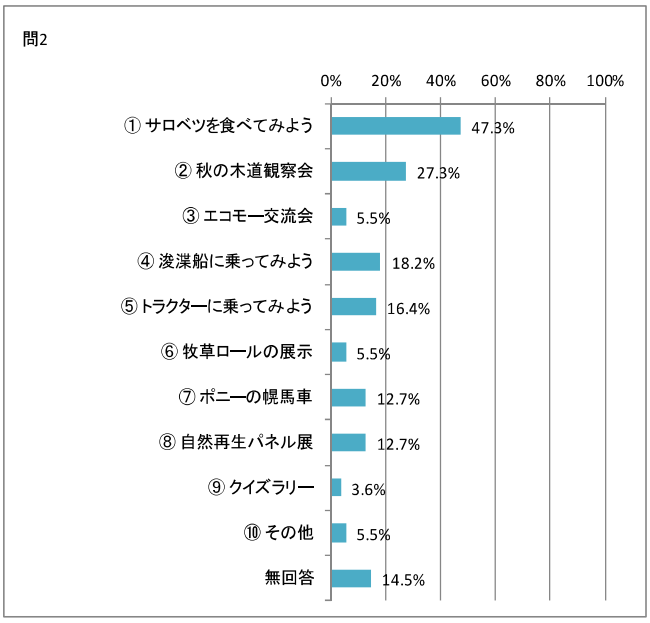
複数回答で、「サロベツを食べてみよう 47.3%」が最も多く、次いで「秋の木道観察会 27.3%」となっており、概ね体験を伴う内容のものほど高い順位となる傾向にあったといえる。

問2：本日の「エコモーDay」で、興味をひいたものは何ですか？（複数回答可）

	回答数	割合
① サロベツを食べてみよう	26	47.3%
② 秋の木道観察会	15	27.3%
③ エコモー交流会	3	5.5%
④ 浚渫船に乗ってみよう	10	18.2%
⑤ トラクターに乗ってみよう	9	16.4%
⑥ 牧草ロールの展示	3	5.5%
⑦ ポニーの幌馬車	7	12.7%
⑧ 自然再生パネル展	7	12.7%
⑨ クイズラリー	2	3.6%
⑩ その他	3	5.5%
無回答	8	14.5%
回答者数	55	

【その他の内容】

「とよとみくん」 3人

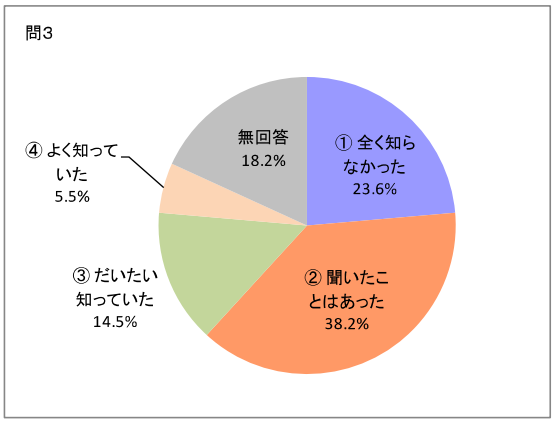


(問 3)サロベツで自然再生に向けた取り組みが行われていたことはご存知でしたか?

サロベツの自然再生事業の認知度を知るための設問である。「聞いたことはあった 38.2%」に対して、「だいたい知っていた 14.5%」「よく知っていた 5.5%」合わせて 20%となっており、自然再生事業の内容については一般にあまり認知されていないといえる。

問3:サロベツで自然再生に向けた取り組みが行われていたことはご存知でしたか?(一つだけ)

	回答数	割合
① 全く知らなかった	13	23.6%
② 聞いたことはあった	21	38.2%
③ だいたい知っていた	8	14.5%
④ よく知っていた	3	5.5%
無回答	10	18.2%
合計	55	

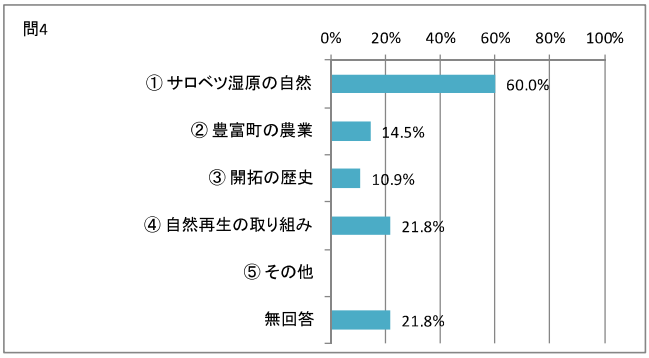


(問 4)サロベツ湿原や農業の共生について、どのようなことに興味を持ちましたか?

複数回答で、「サロベツ湿原の自然 60.0%」が群を抜いて高く、続いて「自然再生の取り組み 21.8%」、「豊富町の農業 14.5%」、「開拓の歴史 10.9%」となった。サロベツ湿原センターには、やはり「湿原の自然」に興味を持って訪れている人が大多数を占めていることがわかる。

問4:サロベツ湿原や農業の共生について、どのようなことに興味を持ちましたか?(複数回答可)

	回答数	割合
① サロベツ湿原の自然	33	60.0%
② 豊富町の農業	8	14.5%
③ 開拓の歴史	6	10.9%
④ 自然再生の取り組み	12	21.8%
⑤ その他	0	
無回答	12	21.8%
合計	55	



(問 5)上記の問 4 で、あなたがそのように回答した理由はなぜですか?

「実際に子どもたちと触れてみて興味を持った」「初めて浚渫船に乗って泥炭採掘の歴史を知りました」「サロベツ原野のしくみを知らなかったため」といった、エコモーDay に来場したことが興味を持つきっかけとなったことがうかがえる回答が多くあることが特筆される。

問5:問4(どのようなことに興味を持ちましたか?)の回答理由

記述内容	問4の回答
珍しい植物やふだん見られない動物に興味があるから	①サロベツの湿原の自然
自然の大切さを守りたいから	
日本最大の高層湿原で貴重なため	
実際に子どもたちと触れてみて興味をもった	
初めて浚渫船に乗って泥炭採掘の歴史を知りました	
道南でこのような場所はないから	
野の花と豊富牛乳が好きだから	
世界的に見ても非常に貴重な環境だから	
自然の大切さ	
尾瀬の湿原に行ったことがあるので、サロベツ湿原にも興味がありました。植物の違いが分かりよかったです。	
歴史に興味があります	③開拓の歴史
自然環境の保全	④自然再生の取り組み
自然との共存を教えていかないと人の生活の利便性のみ追求されていき、後に歪みが生じると考えるから	
農家だから	①+②豊富町の農業
酪農の町だから	
自然を生かしながら人間生活ができる	
このような土地できた歴史に興味がある	①+③
豊かな自然と動物を守りたいから	①+④
サロベツ原野のしくみを知らなかったため	
パネルを見て興味が湧いたので	
農家ですから	②+③
農業に関心があるから	②+④
土地の歴史に興味あるから	③+④

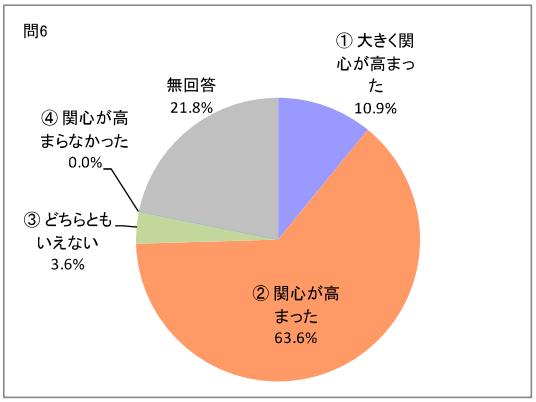
未回答(26)

(問 6)「エコモーDay」に参加して、湿原と農業の共生について関心が高まりましたか?

「大きく関心が高まった 10.9%」「関心が高まった 63.6%」合わせて 70%を超え、目的は十分に果たせたと評価できる。一方、「どちらともいえない 3.6%」「無回答 21.8%」から、エコモーDay の企画意図が十分に伝わらなかった参加者層もあったことがうかがえ、イベント内での伝え方にもう一工夫が必要であるといえる。

問6:「エコモーDay」に参加して、湿原と農業の共生について関心が高まりましたか?(一つだけ)

	回答数	割合
① 大きく関心が高まった	6	10.9%
② 関心が高まった	35	63.6%
③ どちらともいえない	2	3.6%
④ 関心が高まらなかった	0	
無回答	12	21.8%
合計	55	

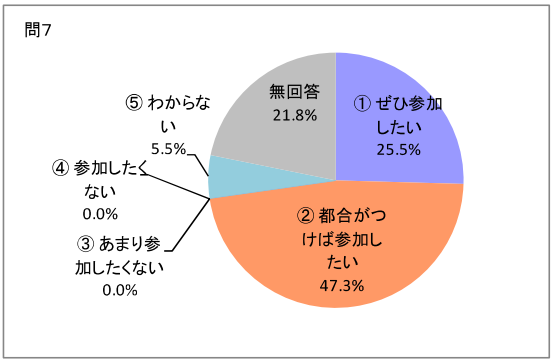


(問 7)今後もこのようなイベントがあった場合、参加したいと思いますか?

「ぜひ参加したい 25.5%」「都合がつけば参加したい 47.3%」合わせて 70%を超え、今回のイベントが好評であったことがうかがえる。「都合がつけば参加したい」がほぼ半数を占めることから、早めの広報が必要であるといえる。

問7：今後もこのようなイベントがあった場合、参加したいと思いますか？（一つだけ）

	回答数	割合
① ぜひ参加したい	14	25.5%
② 都合がつけば参加したい	26	47.3%
③ あまり参加したくない	0	
④ 参加したくない	0	
⑤ わからない	3	5.5%
無回答	12	21.8%
合計	55	

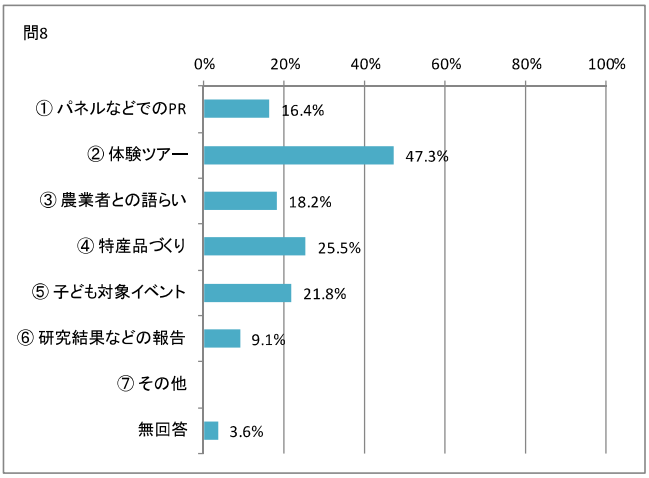


(問 8)自然再生の取り組みをより身近に感じるために、今後どのようなことが必要だとおもいますか？

自然再生事業を身近に感じてもらうためにどのようなことが必要か、複数回答で質問した。「体験ツアー 47.3%」が最も多く、「特産品づくり 25.5%」「子ども対象イベント 21.8%」と続いた。当業務では環境学習として、「サロベツ・エコモー・ツアー」を実施しているが、この環境学習に参加していない利用者からも、このような体験ツアーに対するニーズが高いことが確認できる。

問8：自然再生の取り組みをより身近に感じるために、今後どのようなことが必要だと思いますか（複数回答可）

	人数	割合
① パネルなどでのPR	9	16.4%
② 体験ツアー	26	47.3%
③ 農業者との語らい	10	18.2%
④ 特産品づくり	14	25.5%
⑤ 子ども対象イベント	12	21.8%
⑥ 研究結果などの報告	5	9.1%
⑦ その他	0	
無回答	2	3.6%
回答者数	55	



(問 9)イベント全体を通じて、ご意見・ご感想があればお書きください。

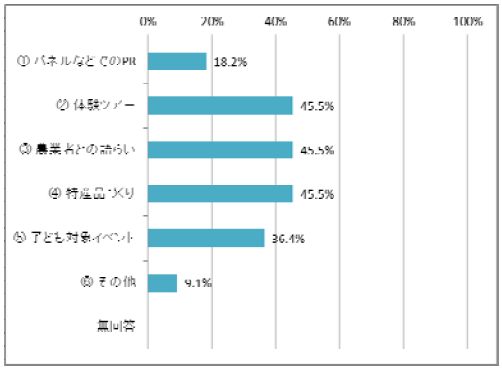
感想としては、いずれも大変満足して楽しんでいただけた印象の回答が占めた。「もう少し子どもが興味のあるものがあれば」という意見は、今後の実施の際に改善点として検討が必要である。「クイズの答えをすぐに教えすぎる」という意見については、クイズラリーに関しての準備が不足であったといえる。答えではなくヒントを予め用意しておき、スタッフで共有しておくといった対応が必要であろう。

問9：イベント全体を通じて、ご意見・ご感想があればお書きください

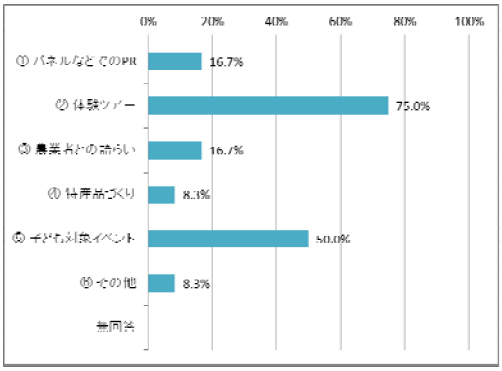
記述内容
子どもたちが楽しめました。
楽しければ何でもサイコー
宣伝をもっと・・・
お疲れ様でした
お疲れ様です。
今後もお願いします。
面白かった。
もう少し子どもが興味のあるものがあればなと思いました。すぐ飽きてしまった。
若い子達が頑張っている姿が印象的でした。
展示が工夫されていて楽しめました。わかりやすかったです。
若い人達が一生懸命取り組んでいるのをみてたのもしく思いました。
スタッフの皆さま、たくさんの準備をありがとうございました。20年前に6年間、夫の仕事の都合で豊富に住んでいました。息子（21）は豊富をふるさとだと思っています。私達も自然一杯の豊富で子育てできたことに感謝しています。
クイズの答えをすぐ教えすぎと思います。
大変来て良かったと思っている。勉強になりました。
よかったです。
いい感じで満足しています。

8.3 環境学習等の今後の課題

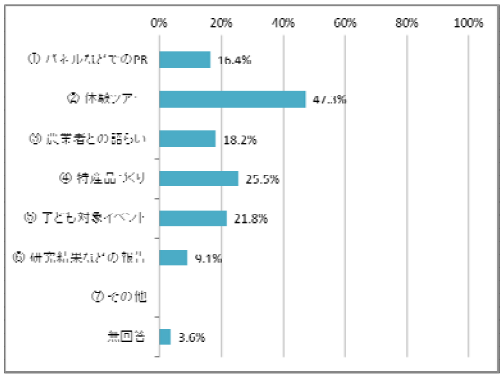
前出の 4 回のアンケート結果において、今後の自然再生事業の普及方法についての回答は下図に示すように「体験ツアー(45.5～75.9%)」が全てのアンケートにおいて最も多い回答となっており、その他は回ごとのばらつきが大きいものの「子ども対象イベント(21.8～50.0%)」、「農業者との語らい（16.7～45.5%）」、「特産品づくり(8.3～45.5%)」が多い回答となった。自然再生事業の普及においては、まず「事業を知ってもらい」、「理解してもらい」さらに「地域の活動」へと発展させながら継続していくこと大切である。さらに、将来的にはその活動の主体が地域住民となることが望まれる。これらを踏まえ、環境学習の試行結果等から今後の課題を検討した。



第 1 回環境学習



第 2 回環境学習



エコモーDay

(1) 今後の課題

「上サロベツ自然再生全体構想」は、”湿原の自然再生”、”農業の振興”、”地域づくり”を目標として平成 18 年 2 月に策定された。この全体構想に基づき、再生普及部会はこれらを推進する事を目的として「上サロベツ自然再生普及行動計画」を策定した。この計画の役割としては、”自然再生を伝える”、”人や団体のつながりをつくる”、”地域への思いを育てる”が掲げられている。これらの役割を果たす一つの方法として今後も自然再生事業の普及においては環境学習等が重要によることから、今後の課題として次の 4 点を整理した。

- 自然環境への負荷の回避
- 適切な説明や誘導
- 環境学習ツアー等による地域づくり
- 子ども（次世代）を対象とした普及活動

○　自然環境への負荷の回避

環境学習ツアー等の実施においては、今年度と同様に調査用木道を利用することが予想される。調査用木道は環境省が自然再生施設として調査に必要最低限の規模で整備・管理しているものであり、周辺は高層湿原を中心とした脆弱な自然環境であることから、自然環境への負荷の回避並びに安全性の確保の点から、一般的な観光ツアーに開放されるべきではない。仮に、今後これらの場所を自然再生事業の普及のために利用する場合には、参加者の量と質を制限する必要があるとともに、環境保全に対する配慮および安全性の確保に関して参加者に対して説明や誘導等を適切に実施できる説明員が引率することが必要である。

○　適切な説明や誘導

環境学習ツアー等の説明員は、自然再生事業の説明、サロベツ湿原の自然環境や動植物の説明にとどまらず、どのような行為が自然環境への負荷になるか、参加者の安全確保のためにどのように誘導すれば良いかなどを会得している必要がある。そのため、説明員は、環境省職員自らが担うか、または、自然再生事業及び対象地域の自然環境等に精通した地元団体や個人等が担うことが望ましい。地元団体や個人が説明員となる場合には、地域での人材育成も期待できる。

○　環境学習ツアー等による地域づくり

自然再生事業の普及において、地域の自発的な活動を促すためには、例えば、環境学習ツアー等を一部有料化しエコツーリズムに発展させるなど、地域の観光振興や、説明員となる団体・個人の活動資金の確保などにも考慮する必要がある。

○　子ども(次世代)を対象とした普及活動

子ども(次世代)を対象とした普及活動は、次世代が地域の課題や取り組みを引き継いで行く意味において重要である。自然再生事業の取り組みを学ぶことは、社会科と理科のそれぞれの領域を横断し、地域固有の問題を学ぶ絶好の機会であり、「総合的な学習」の題材として最も適したもののひとつである。教育委員会や学校と協力し、小・中・高等学校の教育プログラムとして位置づけていくことは、「上サロベツ自然再生普及行動計画」にあるように地域への思いを育てる手段として重要と考えられる。

(2) 環境学習の計画

前項に示した今後の課題を踏まえて、今後、環境学習ツアー等を実施する場合の留意点等をまとめた。

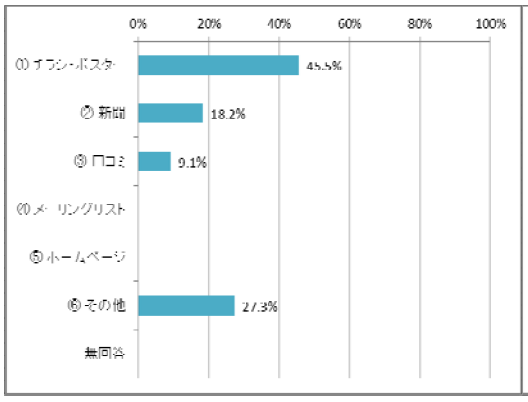
① 開催趣旨

環境学習ツアー等は他の普及活動と相乗して、自然再生事業の目的や必要性、また、これまでの成果や今後の展望などについて説明し、地域住民の自然再生事業への関心を高め、地域における理解者を増やしていくことを目的とする。具体的には下記の効果を目標とする。

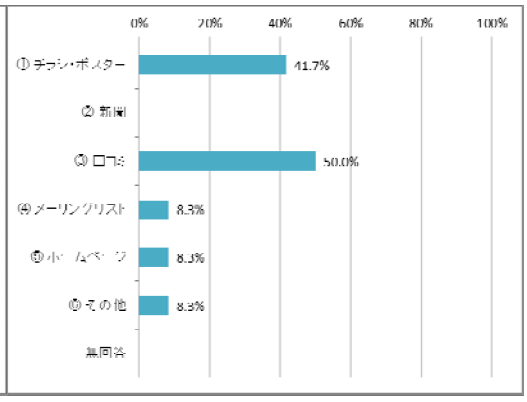
- **上サロベツ自然再生事業に対する住民意識の向上**
- **サロベツの自然環境保全に関する住民参加活動の推進と維持的活動**
- **上サロベツ自然再生事業、自然環境保全に関する情報発信**
- **サロベツの自然環境保全に関する持続的活動の推進**
- **サロベツの自然環境保全に関する人材の育成**

② 参加者の募集

今年度の環境学習ツアーの参加者を対象としたアンケートでは、ツアーを知った方法について回答を求めた。下図に示すように、「チラシ・ポスター」(41.7～45.5%)が多く、「口コミ」(9.1～50.0%)、「新聞」(0～18.2%)となっている。「その他」（8.3～27.3%）は実質的に「口コミ」に該当する回答がほとんどであった。一方、「ホームページ」や「メーリングリスト」といったインターネットメディアを用いた広報は効果が薄かった。また、第 1 回環境学習には天塩町からの参加者が一定数あったことから、広義のサロベツ地域に含まれる天塩町や幌延町にも積極的に参加してくれる層があることを示唆している。



第 1 回環境学習



第 2 回環境学習

これらのことより、参加者の募集方法は下記を計画する。

- 豊富町・稚内市・幌延町・天塩町在住者・・・・主要施設へのポスター掲示
- その他宗谷管内在住者・・・マスコミ各社へのプレスリリース
  （日刊宗谷。NHK 稚内など）
- 広域・・・・・・・・・関係者に対するメール発信、ホームページ・SNS 等での配信

③　開催場所

環境学習ツアー等の目的からして、下記の 3 箇所が主要な対象地域となることが想定される。ただし、これらの地域及び調査用木道は環境省が自然再生施設として調査に必要最低限の規模で整備・管理しているものであり、また、周辺は高層湿原を中心とした脆弱な自然環境であることから、ツアーの実施による環境への負荷の回避、さらに、安全性の確保について十分に配慮することが必要である。

この他に、ツアーの対象としては「自然再生と地域産業との共生」に配慮して、今年度実施したような泥炭採掘工場見学をはじめ､牧場の見学や営農者との語らいの場の提供などにも配慮する事が望ましい。

- サロベツ川放水路南側湿原、調査用木道
- 泥炭採掘跡地、調査用木道
- 旧サロベツ原生花園園地跡地、調査用木道

④　参加者等の規模

環境学習ツアー等に参加し、自然再生事業等に関する理解を深め、趣旨の浸透を図るに適した人数は、今年度の試行から 10 名程度が適当と考えられる。また、この人数は、環境保全及び安全確保からも適切な人数であると考えられる。この人数を上回った場合には、木道を利用した移動という制約条件下では、列が長くなりすぎて説明等に支障をきたす。また、緊急事態の発見や対応も困難になる恐れがある。なお、参加者以外に、説明員・誘導員・記録係の 2～3 名の運営要員が必要である。

- 学習効果、環境保全及び安全確保から参加者は 10 名程度とする。
- この他に、説明・誘導・記録係として 2～3 名の随行が必要。

⑤　説明員

環境学習ツアー等で利用する調査用木道の周辺は高層湿原を中心とした脆弱な自然環境が存在することから、ツアー開催による環境への負荷増大の影響の回避、さらに、安全性の確保から、参加者に対する自然再生事業の説明等を適切に実施できる説明員が必要である。

⑥　開催時期

環境学習ツアー等は現地の気候条件などから、融雪出水終了後から降雪前の 6～10 月の期間が好ましいと考える。さらに、上記の対象域の動植物の観察に適した時期も考慮して設定することが望ましい。

- **環境学習ツアー等は現地の天候条件等から 6～10 月が好ましい。**
- **天候や動植物の観察に適した時期を考慮して設定する。**

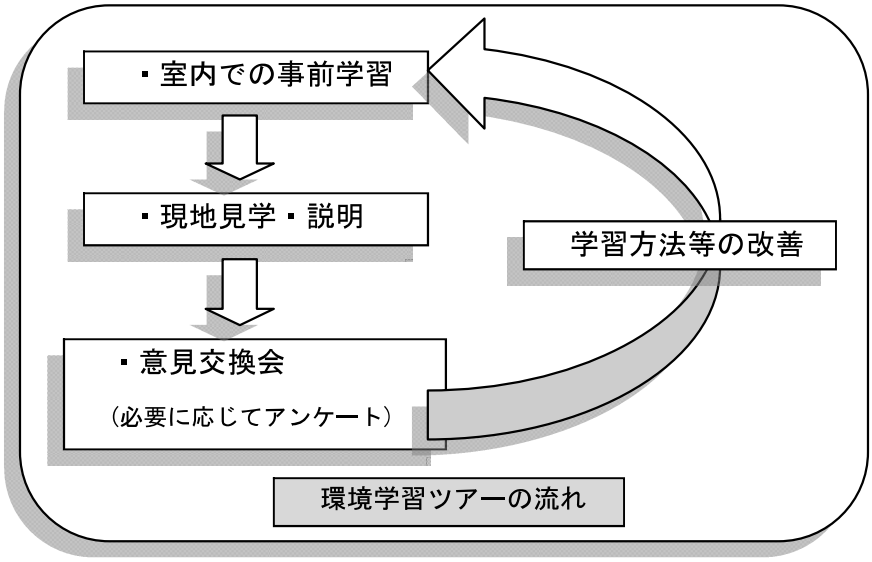
⑦内容及び行程

環境学習ツアー等の内容としては、今年度の「学習」に重点をおいたプログラム以外にも、「調査体験型プログラム」及び「作業体験型プログラム」がある。体験型のプログラムは今回のアンケートでも一定数のニーズのあるプログラムであった。「上サロベツ自然再生事業実施計画」によれば「調査体験プログラム」の例として、「ササ生育地の動向調査」や「泥炭採掘跡地の試験地の追跡調査」などが記載されており、専門家の協力を得るなどによって自然再生事業の調査や効果の把握を自身の手で行う事が出来るため、高い学習効果が期待できるとされている。また、「作業体験型プログラム」として、「ササの侵入抑制のための試験施工」や「外来植物の除去作業」が例として記載されており、自然再生の取り組みを実践し、参加者の意識を高め、実践的な知識を養う効果が期待できるとされている。今後、参加者の安全確保や環境への負荷を軽減する方法を検討し、環境学習の内容としてこれらを追加することが望まれる。

環境学習等ツアーは、参加者の体力的負担等に配慮し、原則的に半日(3～4 時間程度)が適当とする。ただし、「自然再生と地域産業との共生」を加味した 2 テーマを目的とした学習ツアーであれば 1 日(昼食時間も含めて 5～6 時間程度)を要することもありうる。この場合、昼食時間等の休憩を入れて、参加者の体調維持に配慮する事が事故防止のために肝要である。

- **「調査体験型プログラム」、「作業体験型プログラム」の追加を検討する。**
- **環境学習ツアー等は、参加者の体力的負担等に配慮し、原則半日(3～4 時間)とする。ただし、2 テーマを組み合わせるツアーについてはこの限りではない。**

環境学習ツアー等の流れを下記に示す。まず、「室内での事前学習」として当日の行程や注意事項の説明、サロベツ湿原に関する学習および対象域の自然再生事業等の学習を行う。続いて、「現地見学・説明」では途中、要所で追加説明を行う。その際には必要に応じて説明用画像を用意すると効果的である。例えば、対象域の時間経過に伴う変化(乾燥化に伴うササ前線の動き)や当日観察できない動植物などを写真などで示す方法である。「意見交換会」では必要に応じてアンケート等を実施して、自然再生事業の普及の効果を検証し、説明資料や説明方法等の学習方法の改善に反映させる。



8.4　エコモー☆サポーター活動の運営

上サロベツ普及行動計画に基づき、サロベツ・エコモー・プロジェクト推進を目的に活動しているエコモー☆サポーター活動について、月に 1 回程度豊富町にて開催する会議及びイベント（全 7 回、会議は平日夜間に開催）の運営を行った。会議及びイベントの運営に当たっては、「上サロベツ自然再生普及行動計画」の内容や再生普及部会での審議の結果を踏まえて以下のことを行った。なお、各会議の資料は資料編の 9-5 に示した。

① 会議資料の作成

② 実施結果の取りまとめ（議事録作成）

表-8.32　エコモー☆サポーター会議等開催状況

回数.	開催日	会議及びイベント名	開催場所
1	平成 25 年 10 月 2 日（水）	第 12 回エコモー☆サポーター会議	豊富
2	平成 25 年 10 月 31 日（木）	第 13 回エコモー☆サポーター会議	豊富
3	平成 25 年 11 月 23 日（土）	サロベツ・エコモー・メンバー交流会	豊富
4	平成 25 年 12 月 11 日（水）	第 14 回エコモー☆サポーター会議	豊富
5	平成 26 年 1 月 29 日（水）	第 15 回エコモー☆サポーター会議	豊富
6	平成 26 年 3 月 6 日（木）	第 14 回再生普及部会	豊富
7	平成 26 年 3 月 14 日（金）	第 16 回エコモー☆サポーター会議	豊富

また、エコモー☆サポーター活動の運営に当たっては、下記のホームページを活用し、活動の普及に努めた。

表-8.33　ホームページを活用した活動普及実施状況

No..	ホームページ名	普及内容	更新回数
1	サロベツ・エコモー・プロジェクトホームページ	プロジェクト全般の普及、活動紹介、イベント等の告知	9 回
2	サロベツ湿原センターホームページ	イベント告知等	4 回
3	ＮＰＯ法人サロベツ・エコ・ネットワークホームページ	イベント告知等	3 回





イベント情報

「サロベツ・エコモー・メンバー交流会2013」開催のお知らせ

【お知らせ内容】

上サロベツ自然再生協議会のエコモー☆サポーターでは、より多くの方々にサロベツの魅力や自然再生の取り組みを知っていただき、活動の輪を広げるため、今シーズンサロベツを舞台に行われたサロベツ・エコモー・プロジェクトの活動報告などを行う「サロベツ・エコモー・メンバー交流会」を開催致します。

サロベツ・エコモー・メンバー交流会では、サロベツ湿原センターを会場にサロベツ・エコモー・プロジェクトに参加した方々による活動報告を行います。

また、釧路湿原で自然再生事業に携わっていた竹中自然保護官(元釧路湿原自然保護官事務所、現羽幌自然保護官事務所)を招き、釧路湿原自然再生　ワンダグリンダプロジェクトについて講演していただきます。

サロベツ湿原センターを活用し、より多くの方にサロベツの魅力、サロベツ・エコモー・プロジェクトの取り組みを知っていただきたいと思っております。周知にご協力のほどよろしくお願いいたします。



サロベツ湿原センター

ホーム | サイトマップ | イベント開催情報 | 自然情報 | フォトアルバム | サロベツマップ | 関連サイト | お問い合わせ

現在地: Home » イベント・開催情報 » 「サロベツ・エコモーDay」開催のご案内　検索... 検索...

最新のお知らせ

- 「鳥の巣箱作り＆お餅つき大会」開催のご案内
- 『サロベツエコモー・ボンバー空運会』開催のご案内
- 「サロベツエコモーDay」開催のご案内
- サロベツエコモーツアー2013 夏の陸会場へ！！開催されました
- サロベツ自然観察会5回目終了しました

お知らせ

「サロベツ・エコモーDay」開催のご案内

作成日 2013年10月01日（火曜）13:41

平成25年10月14日（月）環境省稚内自然保護官事務所の主催で「サロベツ・エコモーDay」が開催されます。

サロベツでは、平成17年に設立した上サロベツ自然再生協議会により「湿原の自然再生」「農業の振興」「地域づくり」を目標とした自然再生事業が行われています。これら自然再生の取り組みを持続的なものにするためには、地域全体での協力した取り組みや、サロベツならではの特徴ある地域づくりを進めていくことが必要です。

イベントの実施を通してサロベツの湿原の保全や農業に関わる方々が交流を深め、また、地域内外の方に広く自然再生の取り組みを知ってもらうことを目的として行われます。

湿原と農業の共生をより身近に感じていただくため、当日は様々な企画が展開されます！

詳細は下記チラシの通りとなっております。

是非、ご参加ください！



湿原センター パンフレット

画像をクリックすると
PDFが表示されます。

- オモテ面 -



- ウラ面 -



関連サイト

Sar-Betsu Eco-Mo-Project サロベツエコモープロジェクト

Ministry of the Environment サロベツ自然再生事業

利尻礼文サロベツ国立公園 National Parks of Japan

上サロベツ自然再生協議会

湿原センターセンター

Ramsar Site

サロベツ湿原センター

〒098-4100
北海道天塩郡豊富町上サロベツ6662番地

開館時間

11月～4月　開館時間：10:00 ～ 16:00
休館日：月曜日

5月～10月　開館時間：9:00 ～ 17:00
休館日なし

※ただし、6月、7月は、
開館時間：8:30 ～ 17:30 となります。

お問い合わせ

電話：0162-82-3232
FAX：0162-82-1009
e-mail: center@sarobetsu.or.jp

Copyright © 2012 サロベツ湿原センター. All Rights Reserved.
© 2007 - 2014 Phoca.cz | Designed by Phoca


サロベツ・エコ・ネットワーク
HOME
サイトマップ
お問い合わせ
サロベツの紹介
サロベツ・エコ・ネットワークとは？
サロエコの活動
自然情報
イベント情報
あなたにできること
トップページ ＞ イベント情報 ＞ イベント案内 ＞ 【案内】 サロベツ・エコモー・ツアー2013 幻の落合沼へ！！
普段は立ち入れない調査用
木道から自然再生の最前線
をご案内します！！
参加費
無料！
次回予告 10月19日(土)
泥炭採掘跡再生地へ
サロベツ原野では、人間活動の影響により湿原の乾燥化など様々な問題が起きています。このため、「湿原と農業の共生」を目指して自然再生の取り組みが始まっています。
サロベツ・エコモー・ツアー 2013
幻の落合沼へ！！
9月28日(土)開催！ 集合場所 サロベツ湿原センター
※荒天の場合、翌9月29日(日)に延期
9:30集合 12:30解散
参 加 費 ： 無料(定員15名)
申込期限：9月25日(水)
持物・服装 ： 防寒具(汚れても良い、動きやすい服装)、雨具、長靴
申込先
サロベツ湿原センター 〒098-4100 天塩郡豊富町上サロベツ8862
tel:0162-82-3232 fax:0162-82-1009 mail:center@sarobetsu.or.jp
主催：環境省稚内自然保護官事務所
2013年9月15日
【案内】 豊富温泉星空観察会 "追加開催！" のお知らせ
【案内】 サロベツ・エコモーDay
トップへ戻る
いいね！
シェア
5人が「いいね！」と言っています。

（１）第 12 回エコモー☆サポーター会議

【開催概要】

◇日時：平成 25 年 10 月 2 日（水）18:00～19:00

◇場所：豊富町役場　2 階会議室

◇出席者：13 名

【議事録】

（１）報告

①第 11 回エコモー☆サポーター会議ふりかえり（資料 1）

- 事務局から前回会議の内容について説明を行った

（２）議題

①年間スケジュール及び、エコモー・プロジェクト登録状況について（資料 2）

- 事務局から今後の予定とエコモー・プロジェクト登録状況について説明を行った。
- エコモー・プロジェクト登録については E☆S など関係者には改めて登録シートを送る。また昨年の登録者には登録シートの他に昨年のデータも一緒に送り、登録を呼びかける。
- 毎年行なっている活動を新規登録するか否かは別途協議する。

②サロベツ・エコモーDay について（資料 3）

- 事務局からサロベツ・エコモーDay の全体の概要やエコモー☆サポーターの役割、当日の流れ等について説明を行った。
- シフトについては各スタッフが各企画に参加できるよう、配置時間を調整する。
- クイズラリーについてはホッキ祭りではクイズの内容が難しかったため、できるだけ簡潔にすることを確認した。また、クイズラリーの裏面にアンケートを付けることを確認した。
- 自然再生パネル展についてはパネルの設置は当日朝に設置する。
- 参加者とスタッフを区別するため当日はネームプレートを用意する。
- 豊富牛乳公社の協力が分かるよう、牛乳提供の他にパネルやパンフレット、空の牛乳パックを提供していただけるかどうか打診する。

③サロベツ・エコモー・メンバー交流会について（資料 4）

- 事務局から交流会の概要について説明を行った。
- 今年度案は、エコモー・プロジェクト報告会の他に、交流会として他地域で活動していた方の事例発表を行なうことを確認。事例発表は釧路湿原で自然再生事業に携わっていた竹中自然保護官（元釧路自然保護官事務所）を招き講演していただく予定であることを確認。
- サロベツ・エコモー・プロジェクトの将来を見据え、地域の方々とよりつながり深めるために、活動の総括、今後の方針を話し合う場を設けたらどうかという意見があった。

・　今後の方針の話し合いは、普及行動計画の改訂時に行うことが基本となるが、まずは事務局で検討し、E☆S メンバー交流会や E☆S 会議の場で話し合う。

（３）活動報告と告知

・　事務局から地域活動の実施状況と今後の予定について説明を行った。
・　サロベツ・エコモー・ツアー第 1 弾（落合沼）の報告、渡り鳥観察会の報告
・　サロベツ・エコモー・ツアー第 2 弾（泥炭採掘跡地）の告知
・　稚咲内砂丘林再生活動ミズナラ植樹イベントの告知

（４）その他

・　次回の会議は 10 月 31 日（木）とした。

（２）第 13 回エコモー☆サポーター会議

【開催概要】

◇日時：平成 25 年 10 月 31 日（木）18:00～19:30

◇場所：豊富町役場　2 階会議室

◇出席者：12 名

【議事次第】

（１）報告

①第 12 回エコモー☆サポーター会議ふりかえり（資料 1）

- 事務局から前回会議の内容について説明を行った。

（２）議題

①年間スケジュール及び、エコモー・プロジェクト登録状況について（資料 2）

- 事務局から資料を基に今後の予定とエコモー・プロジェクト登録状況について説明し、エコモー・プロジェクト登録については登録数を増やすために、個々に呼びかけを行うことを確認することで了承された。

②サロベツ・エコモーDay のふりかえり

- 事務局からサロベツ・エコモーDay のふりかえりについて説明を行った。
- イベント全体では、50 名が関係スタッフとして関わり、連携することができた。
- 町内への周知では、町内向けに町内会、商工会、婦人部などの各団体に企画の話を持ち込むなどの工夫が必要という意見やシャトルバスを活用したらどうかという意見も出たので今後検討する。
- サロベツを食べようでは、今後もレストハウスと連携するために、お互いにメリットがある形で継続していけたら良いという意見が出た。
- トラクター試乗では、JA 北宗谷、農業普及センター、4H クラブに関わっていただき、豊富町の農業について学ぶ機会があれば良いという意見が出た。
- 牧草ロールの展示では、牧草ロールについて理解が深まるようなクイズ等があれば良かったという意見が出た。
- 農業に関心を持っていただくための企画を次年度検討する。

③サロベツ・エコモー・メンバー交流会について

- 事務局から交流会の概要について説明を行った。
- 発表は 1 活動質疑応答含め 10 分（発表は 5 分）。
- 事務局で当日のスケジュール表や役割分担表を作り事前に配布する。

（３）活動報告と告知

- 事務局から地域活動の実施状況と今後の予定について説明を行った。
- 10 月 20 日　PV（豊富部会）　外来種除去活動（湿原センター）　報告
- 10 月 29 日　PV（幌延部会）　ササ刈り作業（幌延ビジターセンター）　報告
- 11 月 20 日 稚咲内砂丘林再生活動　植樹イベント　告知

（４）その他

- 次回の会議は 12 月 11 日（水）とした。

（３）サロベツ・エコモー・メンバー交流会

【開催概要】

◇日時：平成 25 年 11 月 23 日（土）9:30～12:10

◇場所：サロベツ湿原センター

◇参加者：35 名

今回は交流会と名称を改め、竹中康進氏による釧路湿原自然再生事業の取り組みについて講演していただき、講演後に今年実施したサロベツ・エコモー・プロジェクトの活動報告を行なった。活動報告会では、1 個人 10 団体、計 20 件の活動報告があった。

【講演概要】

羽幌自然保護官事務所自然保護官（元釧路環境事務所自然保護官）竹中康進氏より、『釧路湿原自然再生事業　～普及啓発・市民参加の取組～』と題してご講演をいただいた。

①釧路湿原について

- 釧路湿原は約 2 万 ha の面積をもつ日本最大の湿原であり、約 2,000 種類の動植物が生息する生き物の宝庫である。人間もまた、水源地や環境教育の場として湿原から恩恵を受けている。
- 不毛の土地とされていた時代もあったが、湿原についての知見が集まり、現在では貴重な自然が残る保護すべき場所であると高い評価を受けている。

②釧路湿原で起きている問題

- 湿原や周辺地域で行われた住宅地の開発や農地造成によって、湿原の面積は過去 70 年間で約 20%減少した。また、それらの人間活動によって発生した湿原の乾燥化や、土砂の流入、水質悪化のほか、外来種の侵入やシカの増加による生態系への悪影響など、湿原の質の劣化が大きな問題になっている

③自然再生事業の取り組み

- 上述の問題から釧路湿原を守り、かつての姿に戻すために、地域住民、市民団体（NPO、NGO）、専門家、国、地方公共団体など様々な主体により構成される釧路湿原自然再生協議会が 2003 年に設立され、釧路湿原自然再生事業が始まった。
- 自然再生事業では初めに、基本的な考え方や目標などを定めた釧路湿原自然再生全体構想（以後全体構想と表記）が作成された。全体構想では、対象を湿原を支える河川流域全体（約 25 万 ha）と定め、目標をこの地域に本来生息している生き物が生きていける環境、そして私たちの暮らしに豊かな恵みをもたらす環境とし、ラムサール条約登録前（1980 年）の湿原環境の再生をイメージして取り組みを進めることとされた。
- 上述の全体構想を実現するために必要な施策を行う 6 つの小委員会（再生普及・森林再生・土砂流入・旧川復元・水循環・湿原再生）が自然再生協議会の下に設立された。

④自然再生の普及啓発・市民参加の取り組み

- 全体構想では、目標を達成するための施策の一つとして自然再生の普及啓発・市民参加・環境教育の促進を行うことが明記されている。それらを実行、実現するために基本的な考え方や目標などを定めた「釧路湿原自然再生普及行動計画」（以後行動計画と表記）が策定され、2005 年から 5 年間の計画として実施された。その後計画の見直しと改訂を経て、2010 年からは「第 2 期 釧路湿原自然再生普及行動計画」が実施された。この行動計画では、目標として「釧路湿原を知る、楽しむ、学ぶ」、「自然再生に参加する、行動する」、「地域と関わり、人をつなぐ」が定められ、現在は「自然再生に参加する、行動する」に特に力を入れて推進している。

- 上述の行動計画に沿った具体的な取り組みの一つに、自然再生と地域・市民とのネットワークを広げることを目的としたワンダグリンダ・プロジェクト（以後ワングリと表記）がある。ワングリは「釧路湿原と直接・間接的につながる」様々な取り組みを募集しており、第 2 期行動計画の 3 つの柱に合致すれば、誰でも（個人・団体・企業・学校など）参加可能な取り組みである。

- ワングリ事務局からは、希望者にワングリの各取り組みや自然再生に関する情報（ワングリ☆ニュース）を 2 週間に 1 回のペースで発信する取り組みを行っている。また、ワングリや自然再生事業の情報発信の手伝いをしてもらえる人や施設（ワンダグリンダ推進サポーター）などを募集し、商業施設や公共施設など 42 か所（2012 年）が協力している。

- これまでの成果として、釧路湿原をとりまく多様な活動を情報として集約したことで、市民などが湿原に関わる際の間口を拡大できたこと、フィールドだけではない活動や、特別な技能がなくてもできる活動が生まれたことなどが挙げられる。課題としては、内輪の取り組みから脱却しきれていないことや、市民の生活・経済活動につながる取り組みを増やす必要があること、ワングリに参加することによるメリットを更に創出する必要があることが挙げられる。

- 上述の成果と課題を踏まえた上で、市民参加の機会づくりを増やすために、自然再生に「地域活性化」や「食」、「若者の出会いの場」などの新たな価値を加える工夫をした取り組み「釧路湿原の自然再生に参加しよう」イベントの実施や、ワングリを活用した環境教育や地域活性化に向けた共同プログラムの実施可能性の検討を行った。

- 今後の自然再生では、まだ関係の薄い団体などへ働きかけを行うことや、異なった分野とのコラボレーションを試みること、釧路湿原の今を伝えるツールと企画を実施すること、市民参加促進のための体制づくりと担い手づくりを進めること、地域活性化に結びつけるための工夫をすることが欠かせないと考えている。

【活動報告会概要】

①サロベツ HANA マラソン

発表者：幌延ランニングクラブ　稲垣絃順氏

（質問）私は浜頓別町で開催されている 100km マラソンに参加しているため、HANA マラソンにも参加したい。どうすれば参加できるか？
（回答）是非、HANA マラソンにも参加していただきたいので、お知らせする。
（その他）風光明媚な国立公園の中を走ることで、サロベツの自然の良さを体感できる。たくさんの方々が参加しやすいように距離設定などを考えて、来年も継続したい。

②夏はポニーの幌馬車、冬は馬ソリ！でサロベツを満喫！

発表者：東條恵太氏

（質問）幌馬車を引くポニーは何頭なのか教えてほしい。
（回答）今のところは 1 頭で、乗馬を行なう場合はこれから慣らしていくことを検討している。
（その他）アンケート結果を今後の活動に活かし、将来的には観光牧場を作れるよう頑張っていきたい。

③サロベツを守ろう！「2013 サロベツ河川調査」

　サロベツ今昔物語「やすじいの生きる道」

発表者（サロベツを守ろう！）：サロベツの今を見直す 100 の声の会　谷垣重遠氏

（その他）サロベツ川は釣り場もあり人々にとって親しみの川であり自然も多様に感じられる川である。一方で春は冠水する箇所があるため、酪農家にとっては苦しみの川にもなることから自然と酪農の共存に向け継続的に調査をしていきたい。

発表者（サロベツ今昔物語）：ノプの会　熊谷千恵子氏

（その他）余剰分の収穫物を町民に無償提供できれば良い。 黒大豆を活用した商品開発についても今後検討していきたい。

④サロベツの歌をうたってみよう

発表者：とんこり堂　稲垣順子氏

（その他）いつでも、どこでも、誰でも、すぐに歌える曲を作ったことにより、参加した方々がいつでも口ずさむといった効果があった。また、歌詞にサロベツ原野で体験した印象的なことを盛り込んだことにより、是非行ってみたいといった感想があった。

⑤セイコーマート「北海道牛乳」のふるさとを訪ねてみよう！
　豊徳地区協議会　ごみのポイ捨て防止啓発活動
発表者（セイコーマートツアー）：豊富町役場農政課　岸谷明幸氏

（質問）参加した子ども達が地元の子ども達とも交流する機会を作ってほしい。
（回答）以前は交流を実施していた年もあったが、今後行うにあたって要望があれば企画計画の段階で検討し実施していきたい。

発表者（ごみのポイ捨て防止啓発活動）：豊富町役場農政課　佐々木仁氏

（その他）当日は小雨の降る中の活動だったが、訪れた方々に対して豊富牛乳を配り、酪農の PR ができたことと、ゴミのポイ捨て防止メッセージが書かれたカードを手渡す啓発活動も同時に行なえた。

⑥上サロベツ農業情報マップ、上サロベツの自然と農業を学ぶパネル展
　豊富中学校の総合学習への協力
発表者：稚内開発建設部　野地正昭氏

（質問）緩衝帯を設置することにより、湿原へのササの侵入を止められるといったことを次年度はもっと強調して PR していけば良いと感じた。
（回答）ササの侵入を止められるのかは、まだ検証中のため、検証結果が出れば説明させていただきたい。
（その他）豊富中学校の総合学習への協力は今年で 3 年目を迎えた。エコモー・プロジェクトにも新規登録していただいたことから、次年度も継続して行なっていきたい。

⑦農村生活文化伝承活動をすすめる会
発表者：伝承の会　長尾氏

（その他）活動実施者の中には親の世代の方々も在籍しているが、皆同じ目標に向かって活動しているため、年代を感じさせない。 「伝承の会」の名称の通り、地域の文化を後世に引き継ぐことが目的のため、地域の若い世代を取り組むことが今後の課題である。

⑧押忍！我ら豊富町『カレー部』！
発表者：みさたろとゆかいな仲間たち&サロベツクッキングクラブ　田中美佐保氏

（その他）エコモー・プロジェクトと言うと、自然再生と関係した取組みのような何か難しい印象が強いが、サロベツを楽しもう！という、どんな小さな取組でも良いといったことを身を持って示していきたい。

⑨サロベツ自然語講座、なまら!!サロベツ∞クラブ、外来種からサロベツを守ろう！稚咲内砂丘林再生活動

発表者：NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク　吉原　努　氏

（質問）私もミズナラ苗木を育て植えているが、すぐ枯れてしまう。良い方法はないか。
（回答）稚咲内の砂丘林帯は、土壌が砂地であることから、植樹をしてもうまく育たない。まず別の畑で苗木を3年～4年かけて育ててから植樹場所に移植すると活着率が高まる。
（質問）気になる身近な自然情報、目撃情報があれば随時サロエコに伝えて良いか。
（回答）外来種の情報を含め、気になることがあれば是非随時教えていただきたい。

⑩サロベツ・エコモーDay、サロベツ・エコモー・ツアー、サロベツ自然観察会、　木道ナイトハイク

発表者：環境省稚内自然保護官事務所　自然保護官　中島信人氏

（その他）エコモーDay では、イベントを通して広く地域にエコモー・プロジェクトについて伝えることができ、さらにスタッフ同士の交流がとても深まる機会となった。









（４） 第 14 回エコモー☆サポーター会議

【開催概要】

◇日時：平成 25 年 12 月 11 日（水）18:00～19:30

◇場所：豊富町役場　2 階会議室

◇出席者：10 名

【議事録】

（１）報告

①第 13 回エコモー☆サポーター会議ふりかえり（資料 1）

- 事務局から資料を基に前回会議の内容について説明を行った。

（２）議題

①サロベツ・エコモー・メンバー交流会のふりかえり（資料 2）

- 事務局から講演概要と活動報告会の概要について説明し、項目ごとに気付いた点などを挙げ、ふりかえりを行った。

（交流会全体について）

- 地域の酪農について知る機会を作る。
- 一般町民の方が気軽に参加できる交流会を目指す。
- 開催場所は定住支援センターにしてはどうか。
- 懇親会の前で帰ってしまった人がいたので、時間配分や内容を改めて考える必要がある。
- 次年度も講演会＋活動報告会という形式が良い。

（講演会について）

- 釧路とは規模が違うので身の丈にあった活動を行っていければ良い。
- サロベツ・エコモーDay や交流会形式の発表の場があることなどを含めて、サロベツの取組の良さを再認識することができた。
- 学校のカリキュラムの中で自然再生に関わる活動を取り入れ、自然再生事業がより身近な活動として感じられるようにしていきたい。
- 次年度は獣医さんや酪農ヘルパーさんを招き、違う視点で講演していただけると良い。

（活動報告会について）

- 昨年より発表者が増えたのは良かった。
- 様々な発表を聞けたので新たな考えを知る良い機会となった。
- 地域の方々が発表できる機会を作るために、早めの周知が必要である。
- 質疑応答など発表の機会がもっとあっても良い。
- 座談会形式の意見交換会を検討してみてはどうか。

②平成 25 年の活動のふりかえり

◇エコモー☆サポーター活動のふりかえり（資料 3-1）

- 事務局から平成２５年度の成果と課題について説明を行い、以下意見が出た。

・　ホームページを改善し、登録しやすいよう工夫する。
・　町内の各所に告知掲示板を作る。
・　E☆S 個人のネットワークをもっと活かす。
・　プロジェクト自体の知名度を向上させるためにロゴを改善する。
・　ＪＡ北宗谷や４Ｈクラブと連携し、ホッキ祭りで農業を PR できる場を作る。
・　メンバー交流会は場所を工夫し、アクセスしやすくする方法を検討する。
・　エコモー・プロジェクトの掲示コーナーに情報を載せ、共有する。

◇サロベツ・エコモー・プロジェクトのふりかえり（資料 3-2、資料 3-3）

・　事務局から活動登録数の推移とサロベツ文化づくりのための 7 つの行動の該当数について説明した。レダーチャートを整理してはどうかというご指摘があり、注意書きを書き加えることになった。

（3）活動報告と告知

・　事務局から今後の予定について説明し了承された。
・　12/21 鳥の巣箱作り＆お餅つき大会　告知（サロベツ・エコ・ネットワーク）

（4）その他

・　次回の会議は 1 月 29 日（水）とする。

（５） 第 15 回エコモー☆サポーター会議

【開催概要】
◇日時：平成 26 年 1 月 29 日（水）18:00～19:30
◇場所：定住支援センター
◇出席者：7 名

【議事録】
（１）報告
①第 14 回エコモー☆サポーター会議ふりかえり（資料 1）
・ 事務局から前回会議の内容について説明を行った。

（２）議題
①年間スケジュールについて（資料 2）
・ 事務局から内容の説明を行った。
②平成 26 年度のエコモー☆サポーター活動について（資料 3）
・ 事務局から平成 26 年の活動方針と具体策について説明。挙げられた意見を参考に、事務局で案を作成し、次回会議で検討することで了承された。
・ 平成 25 年の成果と課題、平成 26 年の方針と具体策については了承
・ 平成 26 年の具体的な作業スケジュールが必要。
・ 事務局とエコモー・メンバーでできる作業の振り分けを行う。
・ 事務局が都度メンバーに確認を求めなくても作業が進められるようにする。
・ メンバーにはそれぞれのできることに力を発揮してもらうようにする。
・ 会議以外の場所でもメンバーに力を発揮してもらえるようにする。
◇サロベツ・エコモー・プロジェクトのホームページ改善について
事務局での作業とエコモー☆メンバーでの作業の振り分けの意見の中で、次年度ホームページが改善されることに伴い、その活用方法について意見があった。挙げられた意見については下記の通りとなっている。
・ 定期的な情報発信。
・ 随時更新されるコンテンツを盛り込む。
・ 活動者の許可を取り、地域活動リストを掲載し情報を公開する。
・ 個々のメンバーでも発信できるような仕組みを作り、情報更新する。
・ エコモー活動者が活動している様子、会議の様子、サロベツで活動している団体の紹介を掲載する。
・ 更新にあたってルールを定める。

（３）活動報告と告知
・ 事務局から今後の予定について説明し了承された。
・ 2/22 サロベツ・スノーシューハイク　告知（サロベツ・エコ・ネットワーク）
（４）その他
・ 次回の会議は 3 月 14 日（金）とした。

（６）上サロベツ自然再生協議会　第 14 回再生普及部会

【開催概要】
◇日時：平成 26 年 3 月 6 日（木）13:30～14:30
◇場所：定住支援センター
◇出席者：23 名

【議事次第】
（１）報告
◇平成 25 年度　普及部会の結果について（資料 1-1、1-2、2）
○エコモー☆サポーター代表田中氏及び環境省から報告
《質疑》
（構成員）今回の報告を受けて、エコモー☆サポーター活動、自然再生の普及に向けた取り組みが進んだ印象を受けた。是非今後もこのような活動を継続していただき、湿原と農業の共生をテーマとした活動が地域づくりにつながっていければと思う。
（座　長）自然再生の普及に向けた取り組みを更に進めていただきたいというご意見なので、今後もよろしくお願いしたい。
（構成員）前・再生普及部会座長の辻井達一先生から以前、緩衝帯の今後の活用方法についてお話が出ていたが、その後どうなったのかお聞きしたい。
（事務局）緩衝帯については、再生技術部会にてその効果のモニタリングを行っているところ。現段階で今後の活用方法は決まっていないが、今後の議論の中で検討していきたい。

（２）議題
◇平成 26 年度　普及活動の進め方について（資料 3）
○エコモー☆サポーター代表田中氏から報告
《質疑》
（構成員）平成 26 年 9 月で利尻礼文サロベツ国立公園が指定 40 周年を迎えるが、エコモー・プロジェクトの活動と連携するような計画があるかお聞きしたい。
（事務局）指定 40 周年の記念行事に関しては現在検討中だが、利尻、礼文、サロベツそれぞれの地域で行われている保全の取り組みや地域の方々にスポットが当たるような内容にしたいと考えている。サロベツに関しては自然再生事業やエコモー・プロジェクトにスポットを当て、具体的にはサロベツ・エコモーDay に合わせてフォーラムを行うこと等も検討している。
（座　長）平成 26 年度普及活動の進め方について、再生普及部会として承認することでよろしいか。
（一　同）異議なし

◇その他
・　特になし

◇閉会

（７）第 16 回エコモー☆サポーター会議

【開催概要】
◇日時：平成 26 年 3 月 14 日（金）18:00～19:30
◇場所：定住支援センター
◇出席者：13 名

【議事録】
（１）報告
①第 15 回　エコモー☆サポーター会議のふりかえり
・　事務局から前回会議の内容について説明を行った。

②第 14 回　上サロベツ自然再生協議会　第 14 回再生普及部会について
・　事務局から普及部会の内容について説明を行った。

（２）議題
①平成 26 年 年間スケジュールについて
・　年間スケジュールの内容については一部修正をかけることで了承された。
・　国立公園 40 周年記念事業との連携については、まだ詳細は決まっていないが、エコモー・プロジェクトに登録していただけるようにする。
・　ホッキ祭りに関しては毎年継続して自然再生 PR 活動を実施できているため、昨年の課題を整理し反映させた計画案を事務局で作成し、早めに準備を進める。
・　エコモーDay の準備については、企画立案の段階から酪農関係者と話し合いの場を設け交流を行う。
・　エコモーDay 全体の動きとしては、人手が必要な部分は早めに協力要請する。
・　エコモー・メンバー交流会の会場は一般の方々が参加しやすいように定住支援センターで行う計画で進め、物品準備・スタッフの確保を早めに行う。
・　エコモー・プロジェクトに登録手続きや情報共有の仕方を改めて整理する。

（３）活動報告と告知
（サロベツ・エコ・ネットワーク）
・　4/13　稚咲内海岸清掃　告知
（環境省）
・　パークボランティア募集　告知
・　エコモー・プロジェクトのホームページのリニューアルについて　報告
（宗谷総合振興局）
・　各イベントの後方支援や共催について　報告

（４）その他
・特になし

8.5「サロベツ・エコモー・プロジェクト」の活動募集に向けたパンフレットの作成・印刷

「サロベツ・エコモー・プロジェクト」の活動募集に向けたパンフレットを作成し（校正・デザインを含む）、印刷（A4 版、カラー、1,000 部）を行った。



9.資料編

資料編目次

9.1　環境学習用資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料-1

9.2　環境学習ツアーに関するアンケート用紙・・・・・・・・・・・・・・・・・資料-14

9.3　エコモーDay に関するアンケート用紙・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料-16

9.4　エコモー交流会発表資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料-17

9.5　エコモー☆サポーター会議資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料-29

9.6　サロベツ・エコモー・プロジェクト活動募集パンフレット・・・・・・・・資料-98

9.7　新聞記事等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料-100